

第2次雲南市食育推進計画

いのち
食は生命

学び・伝え・創造する
雲南の食育



平成27年3月

雲南市

第2次雲南市食育推進計画 目次

I 第2次計画策定の背景

1. 計画策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
2. 第1次計画の取り組み状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
3. 雲南市の食育の現状と取り組みの方向性・・・・・・・・・・7

II 第2次計画の基本的な考え方

1. 計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
2. 計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
3. 基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
4. 食育推進の体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
5. 数値目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

III 施策の展開

1. 食で育む・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
2. 食を育む・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

IV 計画の推進と進行管理

1. 推進体制・進行管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
2. 食育推進にあたっての役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

○参考資料

- ・うんなん食育ネット委員の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
- ・うんなん食育ネット活動報告スライドショー・・・・・・・・・・35
- ・平成25年度食に関するアンケート集計結果・・・・・・・・・・45
- ・第2次雲南市食育推進計画策定の経過・・・・・・・・・・・・・・56

I 第2次計画策定の背景

1. 計画策定の趣旨

雲南市には豊かな風土のもとで受け継がれてきた豊かな食があります。その食の恵みに感謝し、生涯にわたって健康で豊かな生活を送ることができるよう雲南市食育推進計画(平成 21 年～平成 25 年 以下、「第 1 次計画」と記載)を策定しました。

第 1 次計画では、計画策定に協力していただいた地域のみなさんを中心にネットワーク(うんなん食育ネット)をつくり情報共有や計画の進行管理を行いながら、学校、地域、家庭など様々な場面で食育を推進してきました。こうした取り組みにより、「食育」という言葉の認知度は高まってきているものの、具体的な取り組みが十分に浸透・定着するということには至っていません。社会的にも、ライフスタイルや価値観の多様化、食を取り巻く環境の変化が進み、食生活の乱れが叫ばれて久しい中、これまでの取り組みの成果と課題を踏まえ、引き続き食育に関する施策を総合的に進め“雲南市らしさ”のある食育を展開するため、第 2 次雲南市食育推進計画を策定します。

食育とは・・・

食育基本法では“生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること”と位置付けられています。

2. 第 1 次計画の取り組み状況

(1) 第 1 次計画の概要

第 1 次計画では雲南市にとって必要性の高い 3 つの重点プロジェクトと計画推進のための体制づくりを焦点に食育推進に取り組みました。また、計画的かつ効果的に推進するため「うんなん食育ネット会議」を立ち上げ、食育に関する団体や市民のみなさんとともに食育を推進しました。年に 1 回うんなん食育ネット会議を開催して、年間の実施計画や活動実績を報告して計画の進行管理や情報共有を行いました。



うんなん食育ネット会議の様子

雲南市食育推進計画

計画の理念

食は生命^{いのち}

— 学び・伝える 雲南の食育 —

「食」は生命^{いのち}です。「食」を知ることは私たちを知ることであり、めぐりめぐり生命の循環に感謝することでもあります。

私たちは、このことを学び、地域や家庭の絆を深めながら、支え合いの中で雲南の食を伝えていきます。

キーワードは、

学び、伝える、支え合う

目 標

市民が、食育を進めるための支え合いをつくり、雲南の食を学び、私たちの暮らす風土に感謝し、その豊かさを家庭や子どもたちに伝えていくこと。

重点プロジェクト

学 ぶ
伝 える

①
子ども「食の実践」
プロジェクト

子どもの食と農の体験活動を推進します。

②
若い世代参加
プロジェクト

若い世代が食育を身近に感じる体験活動や啓発活動を推進します。

③
雲南の食を知る
プロジェクト

雲南の食の良さを市民が体験する活動や情報発信を推進します。

支える

雲南の食を支える仕組みづくり

支え合う

食育を推進するための仕組みとネットワークをつくります。

連携

風土を大切にした農業の推進

(地産地消や有機農業の推進・後継者の育成)



うんなん食育ネットのみなさんの活動の様子

(3) 重点プロジェクト取り組み状況

食育を推進するために、雲南市にとって必要性の高い3つの重点プロジェクトを次のように設定し、取り組みました。①子ども「食の実践」プロジェクト：子ども(保育園・幼稚園・小中学生)の食と農の体験活動を推進する ②若い世代参加プロジェクト：一人暮らしの若者や働き盛りで忙しく、食生活が乱れがちな青壮年を対象に、食育を身近に感じる体験活動や啓発活動を推進する ③雲南の食を知るプロジェクト：雲南の食の良さを市民が体験する活動や情報発信を推進する。

また、食育を推進するための仕組みとネットワークをつくるために ④雲南の食を支える仕組みづくり に取り組みました。

①子ども「食の実践」プロジェクト

目的

食についての正しい知識・技能・マナーを身につけ、また、食や生命への感謝の心を育むため、調理・農作業など、子どもの体験活動を推進します。

●子どもの調理活動の推進

- ・ 笹まきや七草がゆ等の季節食の調理活動の実施
- ・ 自分たちが育てた野菜等を使った調理活動の実施
- ・ 調理したものを地元のお世話になった方にふるまう活動の実施
- ・ 家庭科等における調理活動の実践
- ・ 小学校、中学校における「お弁当の日」の実施
- ・ 教育フェスタ 2013 ひろがれ「弁当の日」 in 島根 雲南大会開催(平成 25 年 11 月)



●体験活動の推進

- ・ 保育所(園)における農業体験の実施
- ・ 幼稚園、小学校、中学校における米作り・野菜作り等の農業体験の実施
- ・ 『夢』発見プログラム幼児期版の策定と啓発活動の実施
- ・ 通学合宿やキャンプなどでの調理活動の実施
- ・ 地元企業と連携した中学生の商品開発体験活動の実施



↑お弁当の日に
児童・生徒が作った弁当

●学校等への地域支援の充実

- ・ 保育所(園)での調理活動、農業体験の際の支援(祖父母、地域の高齢者、食生活改善推進員など)
- ・ 幼稚園、小学校、中学校での農業体験における地域講師の招聘
- ・ 学校給食野菜生産者と児童・生徒の交流
- ・ 保育所(園)、幼稚園、学校等における歯と口、食育の健康教室の実施

●早寝早起き朝ごはん運動の推進

- ・ 親子活動や便り等での啓発
- ・ 小学校、中学校における生活習慣の振り返りと意識付け
- ・ 「うんなん家庭の日」を活用した啓発活動の実施
- ・ 乳幼児健診、離乳食教室、育児相談等での保護者への指導助言
- ・ 早寝早起き朝ごはんフォーラムの開催(平成 24 年 10 月)

早寝早起き朝ごはんフォーラムでの
食育の取り組み紹介→



②若い世代参加プロジェクト

目的

若い世代が、食育を身近に感じる体験活動や啓発活動を推進します。

- 若い世代が参加しやすい体験活動や交流活動の促進
 - ・若い世代対象の料理教室の実施(梅、ゆずを使った料理)
 - ・ホームページ等での食の情報提供
 - ・食に関するグループ活動の推進
- 食育についての周知活動の推進
 - ・郷土料理レシピ集「ふるさと、ごはん。」の販売
 - ・成人式での食育推進啓発活動の実施
 - ・食育推進チラシの配布
 - ・庁舎内における「食育の日」啓発活動の実施



郷土料理レシピ集
「ふるさと、ごはん。」

③雲南の食を知るプロジェクト

目的

雲南の食の良さを市民が実感できるように、食と農の体験活動や情報発信を推進し、地産地消の機運を高めます。

- 市民が参加する食と農の体験活動の充実
 - ・地元食材を活用した料理教室の開催
 - ・商店主による食材講座と料理教室の開催
 - ・「夢」発見プログラムでの中学生の農業関係職種体験の実施
 - ・中学生による都市での地元産商品の販売体験の実施
 - ・スポーツイベントと連携した食のPR
 - ・県外での市内農産物の販売促進の実施
- 雲南の食の良さに関する情報発信
 - ・「幸運なんです。雲南です。」体感フェアや雲南幸あり月の開催
 - ・雲南ブランドサイト「食の幸レポート」への情報掲載
 - ・「市報うんなん」への情報掲載
 - ・講演会等での食育推進活動の取り組み紹介
 - ・健康ひろば(サロン)の設置
 - ・食の交流会の開催
 - ・雲南市ふるさと定住促進協議会との連携による雲南の食の良さのPRの実施(首都圏へのPR)
 - ・雲南市農林振興協議会との連携による台湾への雲南米の販売促進事業の実施
- 地産地消の拡大のための連携策
 - ・農商工連携協議会の取り組みの実施
(スイーツプロジェクト、スパイスプロジェクト、たまごプロジェクト、さくらプロジェクト、山の幸プロジェクト)
 - ・産直加工品研修会の開催



「幸運なんです。雲南です。」体感フェア
食の幸を味わえるロングテーブルの様子

④計画推進の仕組みづくり

目的

食育を推進するための仕組みとネットワークを構築します。

●うんなん食育ネット会議の開催等

- ・うんなん食育ネット会議の立ち上げ(平成 21 年 10 月)
- ・毎年 1 回のうんなん食育ネット会議の開催
- ・うんなん食育ネット委員の活動紹介パネル展示・スライドショーの実施
- ・食育まつり in 雲南への参加(平成 25 年 10 月)
- ・食育についての周知活動の推進(チラシ配布等)

●既存の食育関連団体との連携充実

- ・学校給食野菜生産者グループとの連携
- ・食生活改善推進協議会との連携

3. 雲南市の食育の現状と取り組みの方向性

(1) 成果指標の現状値

第 1 次計画では、食育の推進に関する状況を把握するため重点プロジェクトごとに成果指標を設けました。指標の現状値を把握するため、平成 25 年にアンケート調査を実施しました。結果は次のとおりです。なお、アンケート調査以外で数値を把握したものは【 】内に出典を記載しています。

【評価】◎：目標値を達成している

○：目標値は達成していないが、向上した

△：平成 20 年度を下回った

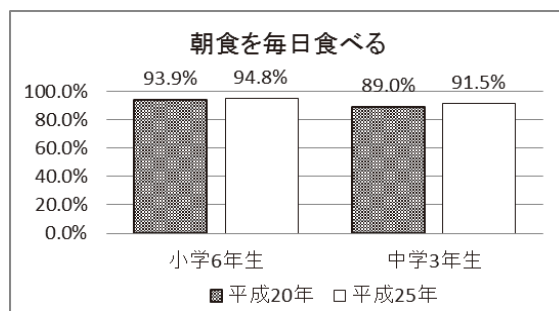
①子ども「食の実践」プロジェクト

・お弁当の日実施校数 【学校教育課からの情報提供】

	平成 20 年	目標値	平成 25 年	評価
小学生	15 校	全校実施	全校実施	◎
中学生	3 校	全校実施	全校実施	◎

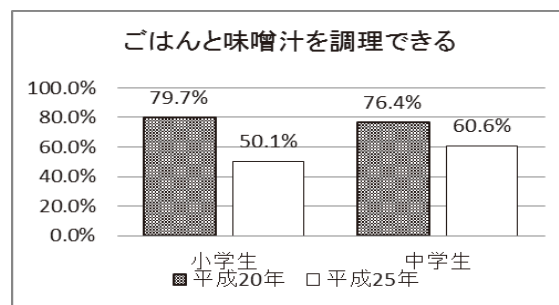
・朝食を毎日食べる 【島根県学力調査より】

	平成 20 年	目標値	平成 25 年	評価
小学 6 年生	93.9%	100%	94.8%	○
中学 3 年生	89.0%	100%	91.5%	○



・ごはん和味噌汁を調理できる 【雲南市生活実態調査より】

	平成 20 年	目標値	平成 25 年	評価
小学校 5・6 年生	79.7%	100%	50.1%	△
中学生	76.4%	100%	60.6%	△



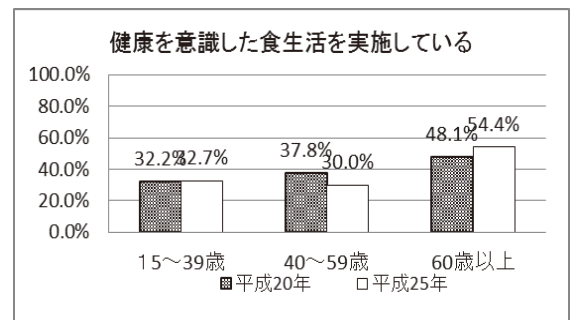
・農業体験活動実施校数 【学校教育課からの情報提供】

	平成 20 年	目標値	平成 25 年	評価
小学生	全校実施	全校実施	全校実施	◎
中学生	全校実施	全校実施	全校実施	◎

②若い世代参加プロジェクト

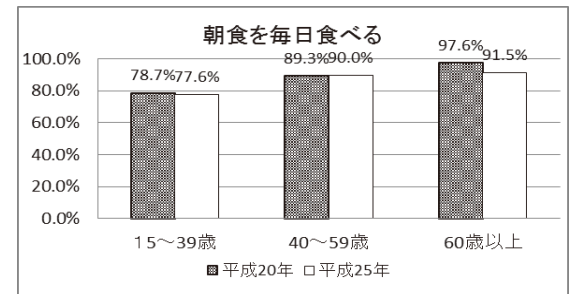
・健康を意識した食生活を実践している

	平成 20 年	目標値	平成 25 年	評価
15～39 歳	32.2%	40.0%	32.7%	○
40～59 歳	37.8%	50.0%	30.0%	△
60 歳以上	48.1%	60.0%	54.4%	○



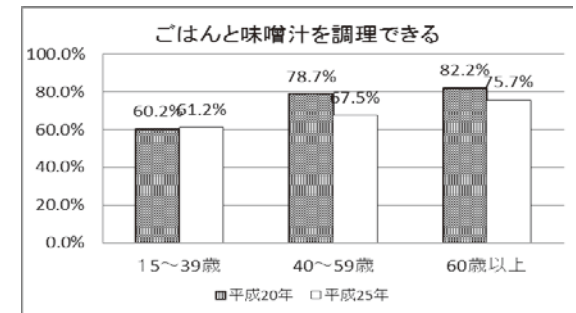
・朝食を毎日食べる

	平成 20 年	目標値	平成 25 年	評価
15～39 歳	78.7%	85.0%	77.6%	△
40～59 歳	89.3%	95.0%	90.0%	○
60 歳以上	97.6%	98.0%	91.5%	△



・ごはんと味噌汁を調理できる

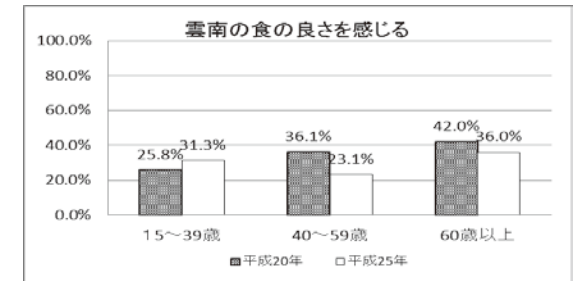
	平成 20 年	目標値	平成 25 年	評価
15～39 歳	60.2%	70.0%	61.2%	○
40～59 歳	78.7%	80.0%	67.5%	△
60 歳以上	82.2%	85.0%	75.7%	△



③雲南の食を知るプロジェクト

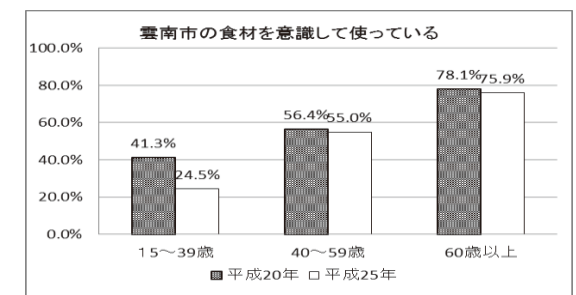
・雲南の食の良さを感じる

	平成 20 年	目標値	平成 25 年	評価
15～39 歳	25.8%	50.0%	31.3%	○
40～59 歳	36.1%	50.0%	23.1%	△
60 歳以上	42.0%	50.0%	36.0%	△



・雲南市の食材を意識して使っている

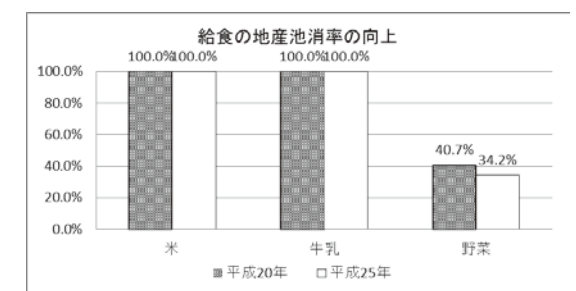
	平成 20 年	目標値	平成 25 年	評価
15～39 歳	41.3%	60.0%	24.5%	△
40～59 歳	56.4%	60.0%	55.0%	△
60 歳以上	78.1%	60.0%	75.9%	△



④計画推進の仕組みづくり

・給食の地産地消率の向上 【教育総務課からの情報提供】

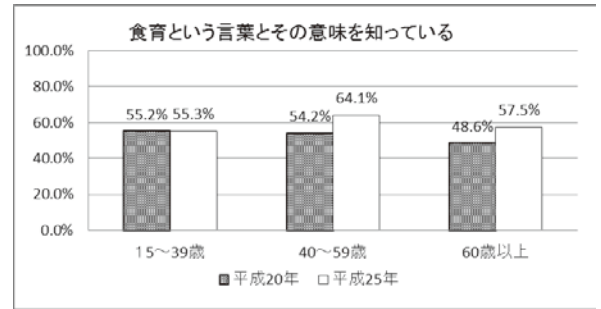
	平成 20 年	目標値	平成 25 年	評価
米	100.0%	100.0%	100.0%	◎
牛乳	100.0%	100.0%	100.0%	◎
野菜	40.7%	50.0%	34.2%	△



●その他

・食育という言葉とその意味を知っている

	平成 20 年	目標値	平成 25 年	評価
15～39 歳	55.2%	70.0%	55.3%	○
40～59 歳	54.2%	70.0%	64.1%	○
60 歳以上	48.6%	70.0%	57.5%	○



(2) 第1次計画の成果と課題

この5年間で、お弁当の日や農業体験など教育機関での事業が定着し、給食では米、牛乳、卵の地産地消率を100%で維持しています。また、「食育」という言葉とその意味を知っていると答えた市民の割合も向上しています。

一方で、ごはんと味噌汁を調理できると答えた市民の割合や雲南の食の良さを感じると答えた市民、雲南市の食材を意識して使用していると答えた市民の割合は平成20年を下回っており、本計画でも引き続き取り組みが必要な課題が見えてきました。

(3) 本計画の取り組みの方向性

雲南市の食育の推進については、第1次計画の取り組みなどにより、「食育」という言葉の認知度が高まるなど、市民の生活の中に食育が広まりつつあります。また、子どもたちが自分だけで弁当をつくる「お弁当の日」の取り組みや地域の食材を活用する「スイーツプロジェクト」「オムライスプロジェクト」などの取り組みは、多くの市民の方に知られる取り組みとなっています。本計画では、第1次計画で育まれたこの“雲南市らしい食育”のスタイルを活かしながら、継続して食育の推進を図ります。

また、雲南の食の良さを感じると答えた市民や雲南市の食材を意識して使っていると答えた市民が平成20年に比べ減少傾向であることから雲南市の食の良さの発信にも力を入れ、雲南市の食の魅力を生内外の多くの方へ伝えます。

そして、「“食育”と言われても何をしたいのかわからない」という声に対し、家庭で実践できる具体的な取り組みを「うんなんの食育あいうえお」として紹介し、「周知」から「実践」へとつなげていきます。

うんなんの**食育あいうえお**とは・・・

平成25年度に市民の方500名を対象に食に関するアンケート調査を行ったところ「食育に関してもっと積極的なPRが必要」や「どんなことを推進しているのかわかりにくい」といった声が聞かれました。そこで、市民のみなさんに取り組みしてもらいたい内容をわかりやすく伝えるため“あいうえお”にまとめました。

- あ** 朝ごはんを食べよう
- い** 「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしよう
- う** 雲南市産の食材を使おう
- え** 栄養バランスを考えた食事をしよう
- お** おいしい食事はみんなで一緒に食べよう



“あいうえお”それぞれの言葉にこめられた思いを伝えるクリアファイルも作成しました。クリアファイルは食育推進にご協力いただける方にお配りしています。

あ 朝ごはんをたべよう



朝ごはんを食べるといいこといっぱい！
“脳が目覚めて、頭がすっきり”
“集中力UPで仕事も勉強もはかどる”
“成績アップには朝ご飯が効果アリ！”

嘘みたいな本当の話。世界中の様々な調査がそれを示しています。雲南市でも、“バランスの良い朝ご飯”を食べている子は、食べていない子に比べて学力調査の平均点が15点も高いというデータが出ています。

い 「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしよう

食材を生産するところから
あなたが食べる「食事」になるまでの過程には
たくさんの人たちの努力や工夫がつまっています。
あなたの食を支える人たちへの感謝と
“いのちをいただく”ことへの感謝をこめて
「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしま
しょう。



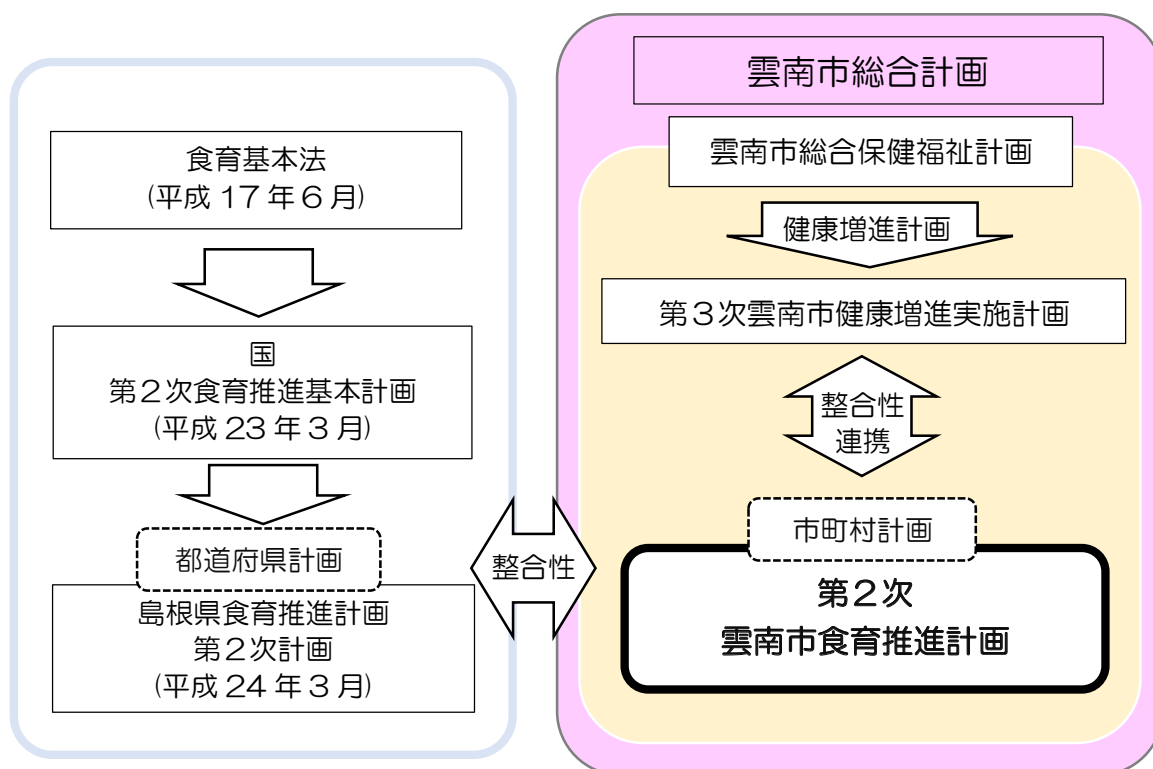
Ⅱ 第2次計画の基本的な考え方

1. 計画の位置づけ

本計画は、平成 21 年 3 月に策定した雲南市食育推進計画の基本理念を継承するものです。

本計画は、食育基本法第 18 条第 1 項に基づく市町村食育推進計画として位置付け、雲南市の食育を総合的、具体的に推進するために策定するものです。

本計画は、「雲南市総合計画」「雲南市総合保健福祉計画」を上位計画とし、「第 3 次雲南市健康増進実施計画」などの各分野の計画などとも整合性を図り、また、連携しながら食育を推進するものです。



2. 計画期間

本計画の期間は、平成 27 年度から平成 31 年度の 5 年間とします。

3. 基本理念

食は生命^{いのち} ～学び・伝え・創造する 雲南の食育～

「食」は生きていくうえで欠かせない営みであり、食べることは生きることに繋がります。

雲南市には豊かな食環境があり、地域に根付いた食文化が今も守られています。その食の恵みやいのちを支える食に関わる人へ感謝すること、食を通して自らの健康の維持・増進を図ること、食を囲み絆を深めること、地域の伝統を受け継ぎながら、新しい食や安全安心な食材を生み出すことなど、食をとおして多くのことを学び、伝え、創造することを理念とし、食で人を育み、食を育むことでまちを育む“雲南市らしい食育”を市民のみなさんとともに進めます。

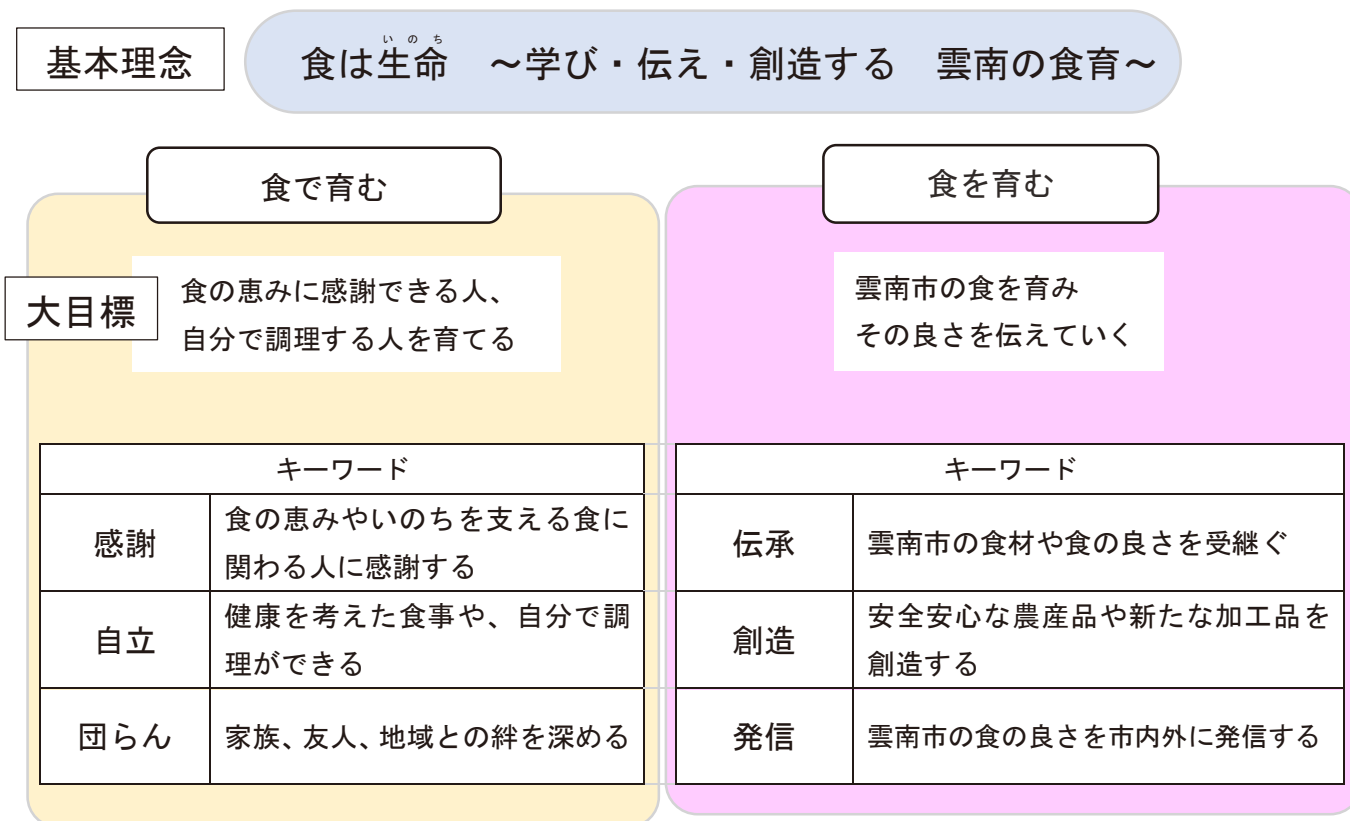
第 1 次計画実施期間には雲南市の食資源を活かし農商工業者が連携しながら商品開発を行い、

スイーツプロジェクトなど各種プロジェクトにみられる多様な商品を創造し注目を集めました。
また、市内では独自の研究を進め新商品を生産販売する企業もあります。

第1次計画実施期間に定着したこの“創造”の取り組みの継続を目指し、本計画では、基本理念に“創造する”を加えました。

4. 食育推進の体系

基本理念の実現に向け、食をとおして心身ともに健康に暮らせる市民を育む「食で育む」、雲南市の食の良さを受継ぎながら、より良い食材や食品を創造する「食を育む」の2つの方向性を柱として、それぞれに大目標と3つのキーワードを設け、食育を推進します。



5. 数値目標

基本理念の実現に向けた取り組みの成果や達成度を客観的な指標により把握するため、数値目標を設定します。数値目標はキーワードごとに設けた中目標ごとに設定します。

【キーワード：感謝】

中目標 食の恵みや周囲の人への感謝をもつ人を増やす

指標：「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしている人の割合
(毎食していると答えた人の割合)

	H25(実績)	H30(目標値)
15-39 歳	53.1%	80%
40-59 歳	51.3%	80%
60 歳以上	43.6%	80%

※食に関するアンケート調査より



【キーワード：自立】

中目標 健康を意識した食生活を実践している人を増やす

指標：朝食を毎日食べている人の割合

	H25(実績)	H30(目標値)
15-39 歳	77.6%	85.0%
40-59 歳	90.0%	95.0%
60 歳以上	91.5%	98.0%

※食に関するアンケート調査より

	H25(実績)	H30(目標値)
小学 6 年生	94.8%	100.0%
中学 3 年生	91.5%	100.0%

※全国学力・学習状況調査より

中目標 自分で調理ができる人を増やす

指標：ごはんと味噌汁が調理できる人の割合(調理できると答えた人の割合)

	H25(実績)	H30(目標値)
15-39 歳	61.2%	70.0%
40-59 歳	67.5%	80.0%
60 歳以上	75.7%	85.0%

※食に関するアンケート調査より

	H25(実績)	H30(目標値)
小学 6 年生	61.3%	100.0%
中学 3 年生	60.6%	100.0%

※全国学力・学習状況調査より



【キーワード：団らん】

中目標 家族や仲間と食卓を囲む人を増やす

指標：1週間のうち、家族全員がそろって食べる食事の回数(1回以上と答えた人の割合)

《朝食》

	H25(実績)	H30(目標値)
15-39歳	51.0%	60.0%
40-59歳	66.7%	70.0%
60歳以上	75.5%	80.0%

《夕食》

	H25(実績)	H30(目標値)
15-39歳	86.5%	90.0%
40-59歳	89.2%	95.5%
60歳以上	90.0%	95.5%

※食に関するアンケート調査より

中目標 家族や仲間と食卓を囲む人を増やす

指標：食事の時間が楽しみな人の割合(楽しみ、どちらかと言えば楽しみと答えた人の割合)

	H25(実績)	H30(目標値)
15-39歳	91.9%	100%
40-59歳	95.0%	100%
60歳以上	98.2%	100%

※食に関するアンケート調査より

【キーワード：伝承】

中目標 地域や家庭に伝統的な食文化(行事食)が残っている

指標：雲南市の郷土食を家庭で調理して食べている人の割合(よく食べている、時々食べていると答えた人の割合)

	H25(実績)	H30(目標値)
15-39歳	50%	60%
40-59歳	73.1%	80%
60歳以上	87.4%	95%

※食に関するアンケート調査より

中目標 世代間に食を伝承する交流がある

指標：保・幼・小・中学校における行事食(笹巻きなど)づくり体験実施校数

	H25(実績)	H30(目標値)
保育園	全園実施	全園実施
幼稚園	10園/全園(12園)	全園実施
小学校	11校/全校(17校)	全校実施

※子育て支援課、社会教育課から情報提供



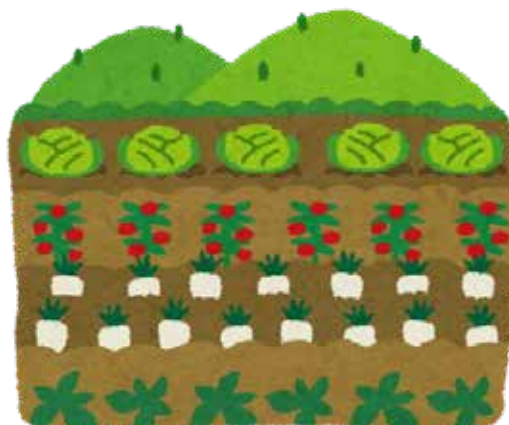
【キーワード：創造】

中目標 安全安心な農産品が手に入る

指標：給食の地産地消率

	H25(実績)	H30(目標値)
米	100%	100%
牛乳	100%	100%
野菜	34.2%	40.0%

※教育総務課からの情報提供



中目標 安全安心な農産品が手に入る

指標：雲南市(産)の食材を意識して使っている人の割合
(意識して使っている、できるだけ使うようにしていると答えた人の割合)

	H25(実績)	H30(目標値)
15-39 歳	24.5%	45.0%
40-59 歳	55.0%	60.0%
60 歳以上	75.9%	80.0%

※食に関するアンケート調査による



中目標 雲南市の食材を使った加工品を生み出す

指標：雲南市農商工連携協議会によって作られた商品数及び会員数

	H25(実績)	H30(目標値)
商品数(延べ数)	6	20
会員数	74	70

※産業推進課からの情報提供

【キーワード：発信】

中目標 雲南市の食の情報を市民が定期的に見聞きする

指標：食育という言葉やその意味を知っている人の割合(言葉も意味も知っている人の割合)

	H25(実績)	H30(目標値)
15-39 歳	55.3%	70.0%
40-59 歳	64.1%	70.0%
60 歳以上	57.5%	70.0%

※食に関するアンケート調査による

中目標 市民が雲南市の食の良さを感じている

指標：雲南市の食の良さを感じる人の割合(感じると答えた人の割合)

	H25(実績)	H30(目標値)
15-39 歳	31.3%	50.0%
40-59 歳	23.1%	50.0%
60 歳以上	36.0%	50.0%

※食に関するアンケート調査による

う 雲南市産の食材を使おう



雲南市で生産された食材は生産者の顔が見える安全・安心なものばかり。
新鮮な地元食材を使い、ご家庭でふるさとの味をご賞味ください。

Ⅲ 施策の展開

計画の推進にあたっては、関係各課の連携を図りながら取り組みます。

1. 食で育む

キーワード	取り組み内容	対象
感謝	学校給食野菜生産者と児童・生徒との交流をすすめる（教育総務課）	児童・生徒、生産者
	保育園、幼稚園での農業体験や調理活動を実施する（子育て支援課）（学校教育課）	園児
	各種農業体験イベントを開催する（農林振興課）	一般
自立	栄養教諭等による食育指導を実施する（教育総務課）	園児、児童・生徒
	乳幼児健診での栄養指導を実施する（健康推進課）	乳幼児、保護者
	お弁当の日を実施する（学校教育課）	児童・生徒
団らん	地域での子どもの調理活動を支援する（社会教育課）	子ども、地域住民
	うんなん家庭の日を推進する（社会教育課）	市民

え 栄養バランスを考えた食事をしよう



毎日3食の食事がまず基本です。
 毎食3～4つのお皿を揃えるように意識しましょう。
 また、薄味で旬の食材を使った手作りご飯は心も身体も健康にします。
 旬の食材は栄養価も高いので献立に取り入れましょう。

2. 食を育む

キーワード	取り組み内容	対象
伝承	保育園、幼稚園での笹まき作りなどの体験活動を実施する(子育て支援課)(学校教育課)	園児
	笹まき作り体験(米作り、餅つき)を学校で実施する(社会教育課)(学校教育課)(農林振興課)	児童・生徒、地域住民
	地域自主組織の食に関する取り組みを支援する(地域振興課)	地域住民
創造	給食の地産地消率の向上に努める(教育総務課)(農林振興課)	給食センター、生産者、児童・生徒
	雲南市農商工連携協議会として地元食材を使った商品を開発する(産業推進課)	生産者・加工業者
発信	お弁当の日、早寝早起き朝ごはんの推進事業などの取り組みを紹介する(学校教育課)	市民
	ブランドサイト等を活用した雲南の食に関する情報を発信する(政策推進課)	一般

お

おいしい食事は みんなで一緒に食べよう

生活スタイルの多様化により、一人で食べる事も多くなっていると思いますが家族や友達と一緒に楽しく食べる機会を大切にしましょう。
おいしい食事とみんなで囲む楽しい食卓。



【食育に関する施策展開】

食は生命～学び・伝え・創造する 雲南の食育～

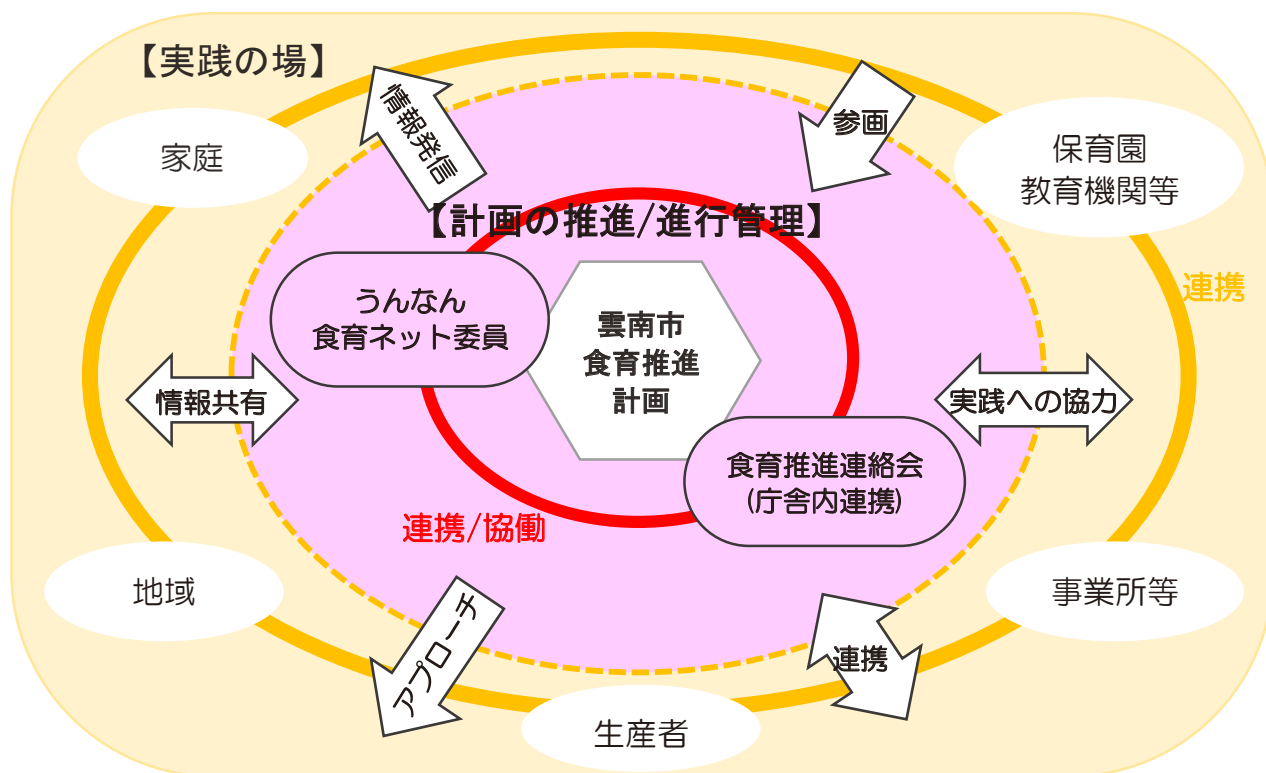
大目標		キーワード	中目標	キーワードごとの指標	取組内容・事業(担当課)	各課の目標
食で育む	食の恵みや周囲の人への感謝をもつ人や増やす	感謝	・食の恵みや周囲の人への感謝をもつ人や増やす	・「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしている人の割合(感謝) ⇒15歳以上/アンケート	・学校給食野菜生産者と児童・生徒との交流の推進(教育総務課) ・保育園、幼稚園での農業体験や調理活動の実施(子育て支援課)(学校教育課) ・各種農業体験イベントの開催(農林振興課)	(5年間で達成する、毎年報告する) 各学校単位で年1回実施 全園での実施 2回/年
		自立	・健康を意識した食生活を実践している人を増やす ・自分で調理ができる人を増やす	・朝食を毎日食べている人の割合(自立) ⇒15歳以上/アンケート 小学6年生、中学3年生/学校教育課 ・ごはんとおかずを調理できる人の割合(自立) ⇒15歳以上/アンケート 小学校5、6年生、中学生/学校教育課	・栄養教諭等による食育指導(教育総務課) ・健康での保健、栄養指導の実施(健康増進課) ・お弁当の日の実施(学校教育課)	保・幼・小・中学校全校実施/年 全会場での実施 朝食を食べる児の割合 1.6歳児、3歳児で100%(健康増進実施計画) お弁当の日に自分で弁当を作る割合 中学校3年生で100% ごはんとおかずが調理できる児童・生徒の割合 小学校6年生、中学3年生で100%
食を育む	雲南市の食の良さを伝えていく	伝承	・家族や仲間と食卓を囲む人を増やす	・1週間のうち、家族がそろって食べる食事の回数(団らん) ⇒15歳以上/アンケート ・食事の時間が楽しみな人の割合(団らん) ⇒15歳以上/アンケート	・地域での子どもの調理活動の支援(学校教育課) ・うんなん家庭の日などの周知(社会教育課)	放課後子ども教室で実施している組織を計上する 概ね1日に1回以上は家族そろって食事をする児童・生徒の割合(小・4～中) 3)100%(全国学力学習状況調査)
		伝承	・地域や家庭に伝統的な食文化(行事食)が残っている ・世代間に食を伝承する交流がある	・雲南市の郷土食を家庭で調理している人の割合(伝承) ⇒15歳以上/アンケート ・保・幼・小・中における行事食(せ巻き)づくり体験実施校数(伝承) ⇒子育て支援課、社会教育課、農林振興課からの情報提供	・保育園、幼稚園でのせ巻き作りなどの体験活動の実施(子育て支援課)(学校教育課) ・せ巻き作り体験など(米作り、餅つき)を学校で行う(社会教育課)(学校教育課)(農林振興課) ・地域自主組織の食に関する取り組みを支援する(地域振興課)	全園での実施(具体的な回数など詳細は別に明記する) 全小学校で実施 全市で実施(地域自主組織で実施している組織数を計上する)
		創造	・安全安心な農産品が手に入る ・雲南市の食の良さを生み出した加工品を増やす	・雲南市(産)の食材を意識して使っている人の割合(創造) ⇒15歳以上/アンケート ・給食の地産地消費(創造) ⇒教育総務課からの情報提供 ・雲南市農工商連携協議会によって作られた商品数及び会員数(創造) ⇒産業推進課からの情報提供 ・食育という言葉やその意味を知っている人の割合(発信) ⇒15歳以上/アンケート ・雲南市の食の良さを感ずる人の割合(発信) ⇒15歳以上/アンケート	・給食の地産地消費の向上(教育総務課) ・学校給食への食材提供者数を増やす(農林振興課) ・雲南市農工商連携協議会として地元食材を使った商品を開発する(産業推進課)	米、牛乳(100%)、野菜(40%) 5年間の推移を追う 5回/年
発信	・雲南市の食の良さを市内外に発信する	・雲南市の食の情報市民が定期的に見聞きする ・市民が雲南市の食の良さを感ずっている	・お弁当の日、早寝早起朝ごはんの推進事業などの取組の紹介(各学校の様子を紹介)(学校教育課) ・給食センターの取組等の情報提供(教育総務課) ・うんなん家庭の日の告知放送(社会教育課) ・ブランドサイト等を活用した雲南の食に関する情報の発信(政策推進課) ・「食育の日」文字放送(健康推進課) ・「食育月間」告知放送(健康推進課)	ホームページ、市報など2回～3回/年 1回/年 毎月 サイトの更新回数(2回/年) 毎月 1回/年(6月)		

IV 計画の推進と進行管理

1. 推進体制・進行管理

食育の取り組みは、教育、保健、農業、商業等の多様な分野の連携が不可欠です。その推進にあたっては、市民、保育・教育関係者、生産者、食品関連事業者、行政がそれぞれの役割のもと連携を図り取り組みを進める必要があります。

計画の進行管理については、食育の推進状況を把握するため、客観的な指標を設定し、庁内関係各課で構成する「食育推進連絡会」を開催し、定期的に取り組み状況を検討するほか、食育ネット会議を開催し、食育ネット委員を中心に広く市民のみなさんと計画の進行状況を共有し食育の推進を図ります。



2. 食育推進にあたっての役割

【市民/家庭】

家庭は子どもが基本的な生活習慣を身につける場であり、最も大切な食育実践の場です。基本的なマナーや良い生活習慣等を家族みんなで実践しましょう。

《具体的な取り組み》

- ・ 食事マナー、配膳や片付け、早寝早起き朝ごはん等、良い習慣を身につける
- ・ 幼児期からの子どもとの調理活動を実践する(お弁当の日への協力など)
- ・ 「一家団らん」、「楽しい食事」等、家庭の時間を確保する
- ・ 栽培、調理等の体験活動や交流活動へ参加する
- ・ 郷土料理や家庭料理を伝承する
- ・ できるだけ地元食材を利用する(地産地消率の向上)



【学校等】

保育所、幼稚園、学校等は、『夢』発見プログラム(雲南市キャリア教育推進プログラム)を踏まえ、子どもが楽しみながら食の大切さや楽しさを学ぶことができるよう、家庭や地域と連携しながら食育を推進しましょう。

《具体的な取り組み》

- ・栽培、収穫、調理、生産者との交流等の体験活動の実施を充実させる
- ・給食を教材とした食育を実践する
- ・「お弁当の日」を保護者とともに実践する
- ・早寝早起き朝ごはん運動を展開する



【地域】

市内全域での食育活動をすすめるためには、地域の協力が不可欠です。家庭や学校での食育活動への支援や、地域で自主的な活動をしている団体等の多様な活動が求められます。

《具体的な取り組み》

- ・学校や交流センター等での食に関する事業に協力する
- ・地域での調理活動等で子どもの出番を増やす
- ・食事のマナー等の子どものしつけを地域の大人が実践する
- ・体験活動や交流活動を積極的に実施する

【事業所】

地域の一員として、家庭や学校での食育活動への理解と協力が求められます。また、情報発信や商品開発などそれぞれの事業所の強みを活かした食育推進への協力が求められます。

《具体的な取り組み》

- ・家庭教育、学校教育への理解と協力
- ・「うなん家庭の日(毎月第3日曜日)」や「食育の日(毎月19日)」等での食育活動への協力
- ・雲南市の食の情報発信
- ・雲南市の食の良さを活かした商品開発

【行政】

市民一人ひとりが食育を実践できるよう周知に努め、保育、教育、保健、農業、産業等それぞれの分野の連携を図りながら全市的な食育の推進を図ります。また、食育ネット委員をはじめとする市民団体等との連携を図り、計画の進行管理を行います。

《具体的な取り組み》

- ・食育推進活動を実施する
- ・市報やホームページを活用した情報発信を行う
- ・各種健診等を通じて食育推進活動を実施する
- ・雲南市の食の良さを活かした商品を開発する
- ・計画の進行管理を行う



○參考資料

《うんなん食育ネット委員の紹介》

雲南市の食育推進に参画していただいているうんなん食育ネット委員のみなさんに、今後の取り組みへの決意を発表していただきました。この決意を参考にして、地域、職場、家庭で、できることからはじめてみましょう。



有限会社木村有機農園 木村晴貞さん

●市民としてできること、家庭でできること

バランスの取れた食事への関心を高めるよう広報する。
安心・安全な農産物の生産(有機栽培)や加工技術を後継者へ伝承していきたい。
地産地消を促進する。

●所属する組織でできること

安心安全な食品を提供する。県外からこられた方に雲南の食を買ってもらえるようなPRをする。商品開発では米粉麺の開発をすすめ、アレルギー体質の方でも食べられるつなぎなしの麺を作成し、商品化していく。

学校給食野菜生産グループ連絡会 梶谷久光さん

●市民としてできること、家庭でできること

食材の中の生命をいただくことを伝えたい。地元食材を利用する。

●所属する組織でできること

学校では授業への参加協力、命を頂いているということを伝える。
感謝の気持ちを持ってもらえるように働きかける。
組織としては雲南の食の良さを活かした情報発信、商品開発、料理教室などを行う。



バケツでお米を
育てました

雲南市食生活改善推進協議会 小村洋美さん

●市民としてできること、家庭でできること

三食きちんとバランスよく食べる。

●所属する組織でできること

分量を量り料理する。

なるべく地産地消となるよう材料を選ぶ。

「母の味はなにか」を小中学生に聞いてみたい。



雲南市商工会 門脇里依子さん

●所属する組織でできること

- ・雲南市農商工連携協議会の事務局として、市内の食材を使った商品開発、販路拡大等を行っていききたい。
- ・商工会女性部組織としても、地域伝統の食文化・行事食の伝承にも寄与していききたい。

奥出雲産直振興推進協議会 井上静子さん

●市民としてできること、家庭でできること

多くの技術・経験を発信していく。

●所属する組織でできること

認識や技術が失われている。

食する機会を持ってもらうことで次世代に伝えて生きたい。



J A雲南企画総務部ふれあい課 田邊佐由利さん

●所属する組織でできること

女性部組織や女性大学では、祖母・母親（姑）世代から娘（嫁）世代への地域伝統の食文化・行事食等の継承、子育て世代へ食の安全性等への理解や地産地消の促進を。次世代を担う子どもたちには農畜産物が生産されてから食卓へ届くまで、また農や食、命の大切さを、体験学習を通して伝えていく。このほか広報紙を活用し、食に関する情報を発信していく。

雲南市校長協議会 加納諭高さん

●市民としてできること、家庭でできること

家庭では、家族揃っての食事の時間をできるだけ確保したい。また、食事の準備や片付けなど、家族で協力出来ることは進んでしたい。

市民としては、地元でできた新鮮な野菜や乳製品・肉などを優先的に購入し、できるだけ旬の味を楽しみたい。

●所属する組織でできること

学校では、児童生徒が自分で自分の健康管理ができるよう食事の大切さを指導するとともに、弁当の日などを利用して簡単な調理技術の習得をめざしたい。また、ふるさと教育の一環として地域の食材や加工品を知る学習を取り入れるとともに、農作物を育てる体験活動や食に関わる人との交流を通して、食べ物を大切にす態度や感謝の気持ちを育てたい。そして、児童生徒の感謝の気持ちを地域の方々へ還元し、食に携わっている皆さんにも喜びを感じてもらいたい。

株式会社 ふるさと村 錦織恵美子さん

●所属する組織でできること

地元の食材を使った商品作り。それを使ったメニュー作り。子ども達に地元の食材について知ってもらいたい。子供たちに地元の農産物を使った商品のアイデアをもらう機会をもった。商品の原材料を作っているのなかなか難しいが、子供たちに収穫体験の機会など提供したい。

食を通じた仲間づくりグループ 苺くらぶ 深田淑子さん

●市民としてできること、家庭でできること

基本は家庭の料理だと思うので、母親ばかりではなく、家族全員が調理(食の大切さ)の基本を習得して、ファストフードよりも美味しい手作り素材の味、旬の味が食卓に並ぶ様に意識していきたい。

●所属する組織でできること

子どもがおっぱい以外の最初に口にするもの離乳食の素材についてオーガニックや地元の安心安全野菜、天然のだしの美味しさを若い母親世代に知ってもらうこと。毎日の調理からの取り分けだったり、簡単で美味しいもの、続けて作っていけるものをみんなで実習という形で身につけて欲しい。その為の活動をしていきたい。



栄養士 佐々木久美さん

●所属する組織でできること

家庭の中で心を込めて料理をする。スポーツ栄養での講習などを通じて貢献できたら。

NPO法人 くらしアトリエ 梅慈子さん

●市民としてできること、家庭でできること

子どもに「手作りの味」を覚えてもらう。品数を考え、野菜たっぷりのごはんで楽しい食卓を作る。

●地域の一員としてできること

顔の見える関係を大切にし、ゆかりのある方からいただく食べ物を大切にする。地元のものを食べることを心がけ、有機 JAS やエコファーマーの表示がある野菜を優先的に買って買い支えの一助となりたい。

●所属する組織でできること

20代～40代の女性を中心に、大人が学ぶ場所を提供し、地域の食を広める。単なる発信ではなく、受け入れられやすい方法を考え、楽しく食についての知識がふえるような場を増やしていきたい。

雲南市栄養教諭 桑本佳子さん

●所属する組織でできること

学校給食の中でも郷土料理の伝承をテーマに笹巻き、鯖寿司を提供し、給食センターと地域とのつながりを持つ。総合的な学習の時間に郷土料理の実習をしている。雲南市の教育研究部会の中で味噌汁についての実態を把握するだけでなく、味噌汁とご飯の調理ができる子の割合を増やしていけたらよい。

雲南保健所

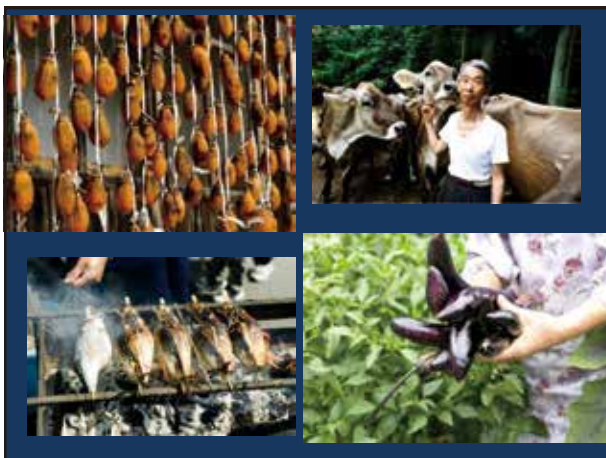
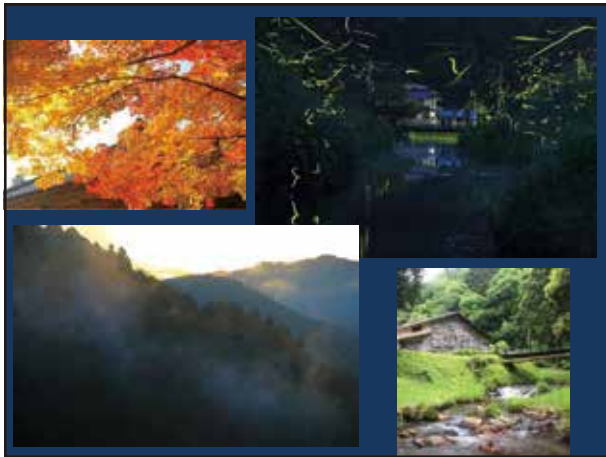
●所属する組織でできること

バランスの取れた食事、うす味や適塩習慣の定着、朝食欠食対策など、食の重要性を伝え、体験を通じた食育を推進する。また、関係者等を対象とした研修会等を企画する。

食育の情報サイト等を活用した情報発信をする。

《うんなん食育ネット活動紹介スライドショー》

いのち
「食」は生命
— 学び・伝える雲南の食育 —



そして

雲南市の食育は
地域のみなさんとの
協働によって
進められています



うなん食育ネット 活動紹介

つくる

「食」をつくる

木村有機農園

つくる



農園での野菜栽培には化学肥料、化学農薬を使用せず
県のエコロジー農産物に認定されています。

つくる

木村有機農園



取引先の
農園視察の様子

つくる

木村有機農園



新鮮な野菜が
いっぱい

木村有機農園

つくる



Iターン者の就農受入れ
視察の様子



木村有機農園

つくる



立派な野菜が実っています。



木村有機農園

つくる



おいしいきゅうりを
食べながらの視察



伝える

子どもたちに
伝える

学校野菜生産グループ連絡会



小学校と保育所で野菜作り
のお手伝いをしています。



伝える

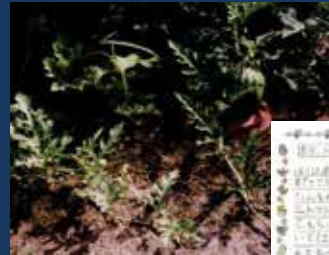
学校野菜生産グループ連絡会

伝える



教室から見えるところに畑を作りました。

学校野菜生産グループ連絡会



児童の皆さんからのお礼のお手紙は大変励みになります。

伝える

学校野菜生産グループ連絡会



伝える

学校野菜生産グループ連絡会



夏まつりのカレーのためにじゃがいもを収穫しました。



伝える

学校野菜生産グループ連絡会

伝える

畑の様子



一緒に笹まきづくりも体験しました。

届ける

新鮮な野菜を 家庭に届ける

奥出雲産直振興推進協議会

届ける



産直相談員
『アグリキャップ』
講習会の様子

奥出雲産直振興推進協議会



届ける

奥出雲産直振興推進協議会



熱心に視察する参加者



届ける

奥出雲産直振興推進協議会



室内での講習会も
行います。



届ける

奥出雲産直振興推進協議会



産直振興大会の様子



優良生産者の表彰

届ける

広める

「健康的な食」を 広める

食生活改善推進協議会



調理実習の補助の様子



広める

食生活改善推進協議会



広める

食生活改善推進協議会



男の料理教室の様子



広める

食生活改善推進協議会



広める



教えあいながらの調理実習です。

食生活改善推進協議会



おいしい昼食ができました。



広める

学ぶ

つくることで
学ぶ子どもたち

雲南市小中学校 **学ぶ**

『お弁当の日』は市内の全小中学校で取り組まれています。





雲南市小中学校 **学ぶ**




献立から片づけまでできるように取り組みます。発達の段階に応じてできることからやっています。




雲南市小中学校 **学ぶ**





雲南市小中学校 **学ぶ**




「お弁当の日」を通じて自らの食について理解を深め安心して安全な食を取捨選択する力をつけます。

つなぐ

母から母へ
母から子へ

つなぐ

莓くらぶ





離乳食を作ったり親子で料理をしています。

つなぐ 苺くらぶ




子どもと一緒に調理します。

苺くらぶ つなぐ

子どもたちははりきってお手伝いします。




つなぐ 苺くらぶ




小さな子と一緒に参加できます。

苺くらぶ つなぐ

お母さん同士の




情報交換の場でもあります。

つなぐ 苺くらぶ

月齢にあわせた離乳食



みんなで食べる食事も作ります。

つなぐ 苺くらぶ





提供して頂いた食材の紹介をしながらみんなで昼食をいただきます。

暮らす

大切なのは、
「どこに暮らすかではなく、
どう暮らすか。」

暮らす

くらしアトリエ



“大人が学ぶ場所づくり”として
「くらしの学校」を
スタートさせました。



くらしアトリエ

暮らす

消費者が山陰地方の食の恵を実感し



くらしアトリエ

暮らす



生産者のこだわりを理解して

相互に交流することを
目的としています。

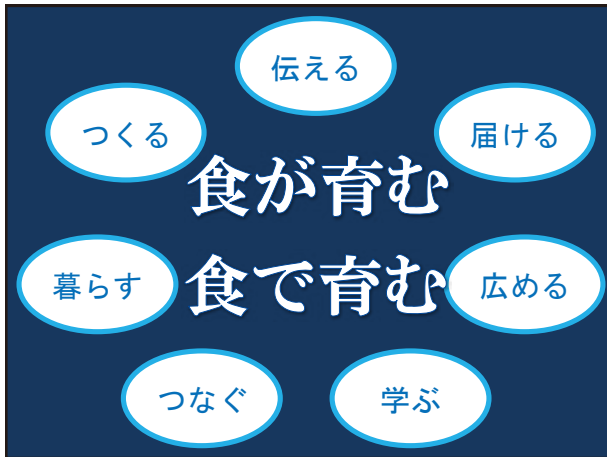
ともに考える
ともに伝える

うなん食育ネット会議

1年に1度、委員があつまり
市の食育推進や
それぞれの活動について



意見交換や
情報共有する場を
設けています。



うんなん食育ネット委員

有限会社 木村有機農園
 雲南市学校野菜生産グループ連絡会
 雲南市食生活改善推進協議会
 雲南市商工会
 奥出雲産直振興推進協議会
 JA雲南 総務部ふれあい課
 雲南市立学校
 食を通じた仲間づくりグループ 莓くらぶ
 雲南市立病院
 NPO法人 暮らしアトリエ
 株式会社 吉田ふるさと村
 島根県 雲南保健所

事務局:雲南市 健康推進課

雲南市の取り組み

7～8カ月のお子さんを対象とした離乳食教室や、保健師・栄養士・歯科衛生士による健康教室

歯科衛生士による食を楽しむための口腔指導を行っています。

受け継がれてきた
食の豊かさに感謝し

生涯にわたって健康で
豊かな生活を送りたい

雲南市では
地域の方との協働により

生涯を通じた食育を
実践しています

幸運なんです。
雲南です。

《食に関するアンケート調査結果》

※ ○ 新規項目

(1) アンケート方法

調査対象	雲南市民(15歳以上)	対象者数	500人
抽出方法	15歳以上(平成26年4月1日現在)の方を対象に人口及び男女比率をもとに無作為で抽出		
回答者数	206人	回収率	41.20%

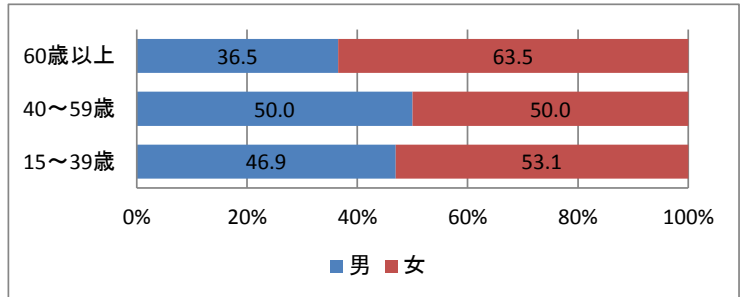
○アンケート集計に際して

- 各設問ごとに無記入のものは除外して集計を行っているため、各設問で合計数は異なる。
- 年代別の傾向を捕らえることを目的に、年代を3階層(15-39歳、40-59歳、60歳以上)に分類し、集計を行った。

(2) 回答者属性

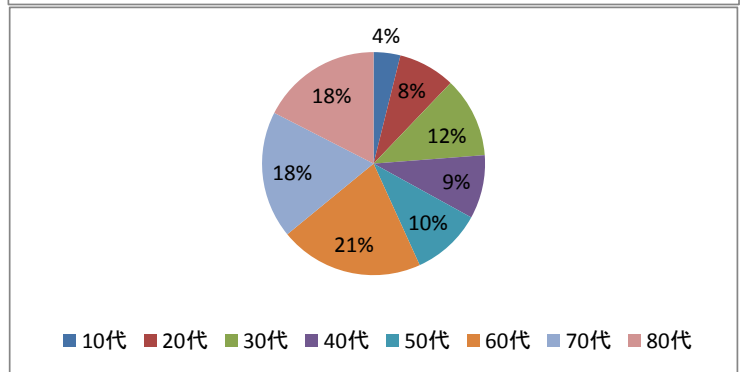
問1 性別

	15-39歳	40-59歳	60歳以上	計
男	23	20	42	85
女	26	20	73	119
計	49	40	115	204



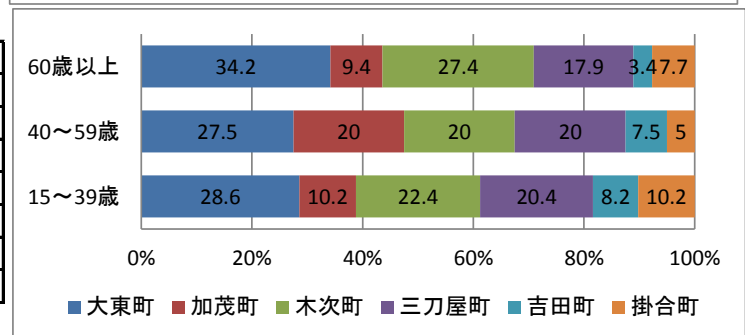
問2 年代

	年代別人数	階層別人数
10代	8	49
20代	17	
30代	24	
40代	19	40
50代	21	
60代	43	117
70代	38	
80代	36	
合計	206	



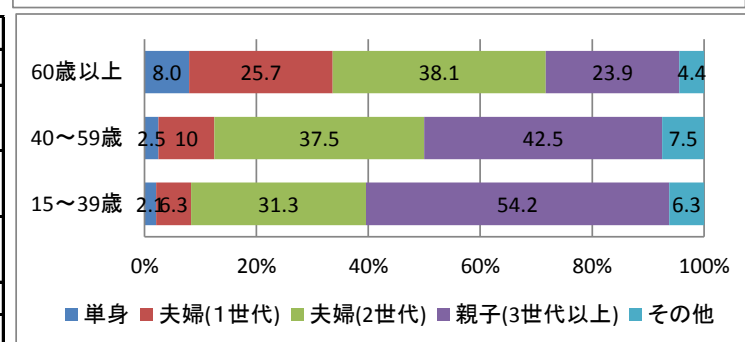
問3 地域

	15-39歳	40-59歳	60歳以上	計
大東町	14	11	40	65
加茂町	5	8	11	24
木次町	11	8	32	51
三刀屋町	10	8	21	39
吉田町	4	3	4	11
掛合町	5	2	9	16
計	49	40	117	206



問4 世帯構成

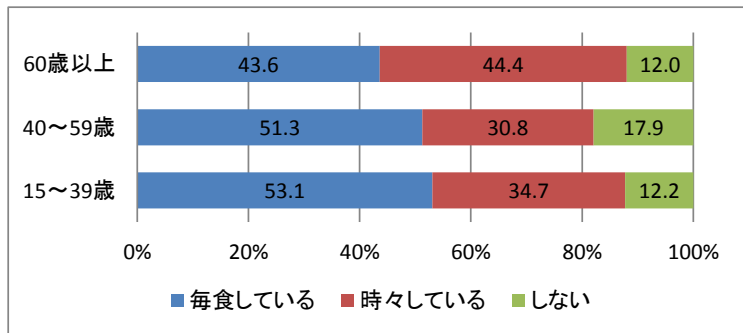
	15-39歳	40-59歳	60歳以上	計
単身	1	1	9	11
夫婦(1世代)	3	4	29	36
親子(2世代)	15	15	43	73
親子(3世代)	26	17	27	70
その他	3	3	5	11
計	48	40	113	201



(3)食の現状

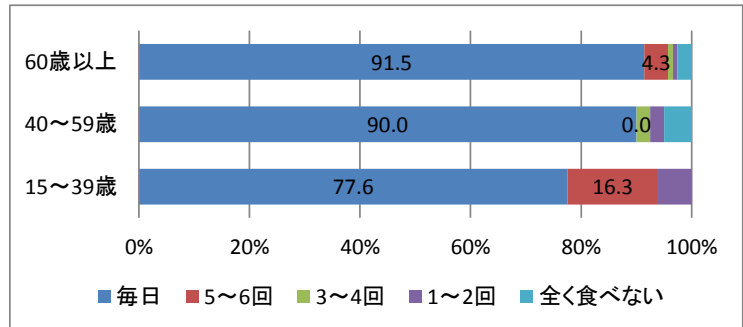
問1 ごはんを食べるとき「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしますか？

	15-39歳	40-59歳	60歳以上
毎食している	26	20	51
時々している	17	12	52
しない	6	7	14



問2 1週間のうち、朝食は何回食べていますか？

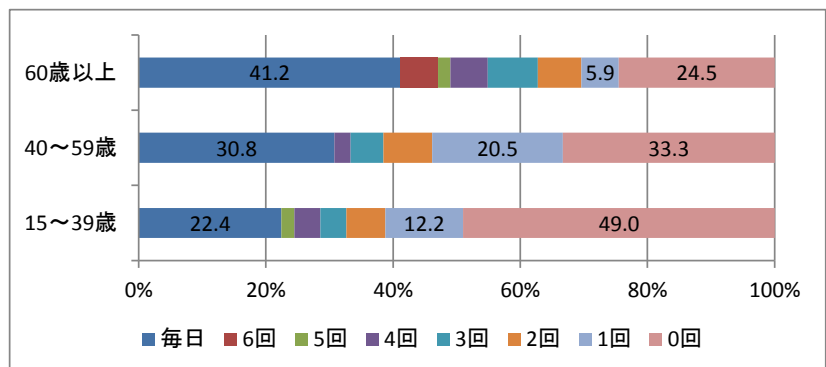
	15-39歳	40-59歳	60歳以上
毎日	38	36	107
5~6回	8	0	5
3~4回	0	1	1
1~2回	3	1	1
全く食べない	0	2	3



問3 1週間のうち、家族全員がそろって食べる食事は平均何回ありますか？

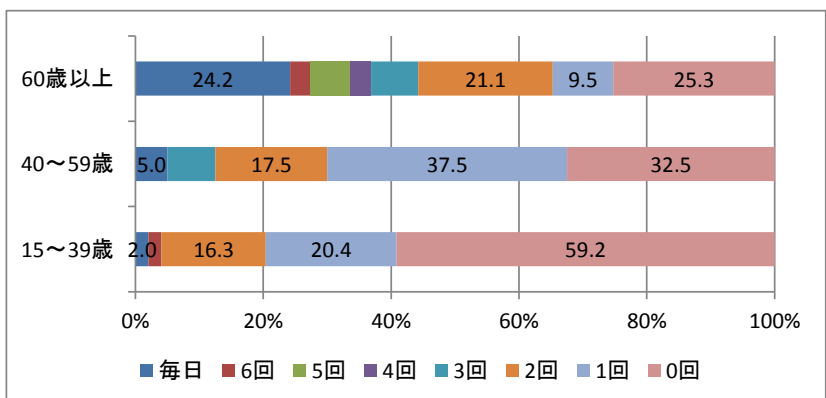
【朝食】

	15-39歳	40-59歳	60歳以上
毎回	11	12	42
6回	0	0	6
5回	1	0	2
4回	2	1	6
3回	2	2	8
2回	3	3	7
1回	6	8	6
0回	24	13	25



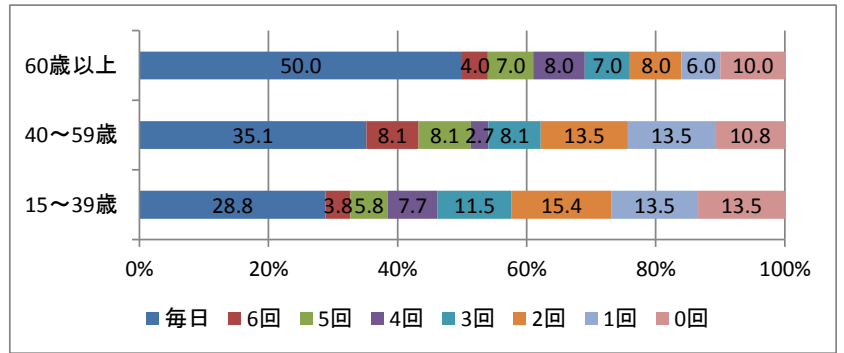
【昼食】

	15-39歳	40-59歳	60歳以上
毎回	1	2	23
6回	1	0	3
5回	0	0	6
4回	0	0	3
3回	0	3	7
2回	8	7	20
1回	10	15	9
0回	29	13	24



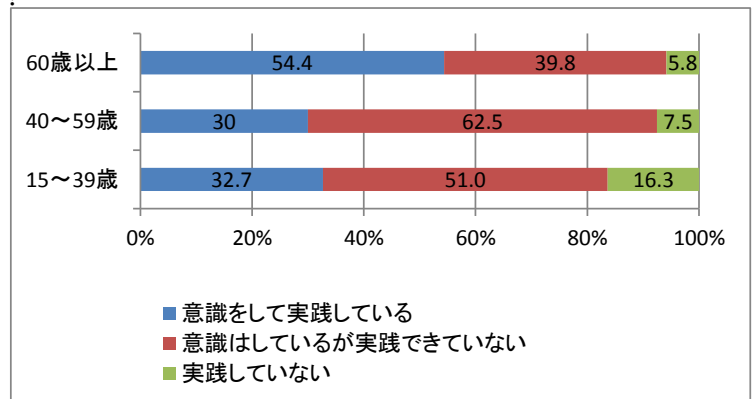
【夕食】

	15-39歳	40-59歳	60歳以上
毎回	15	13	50
6回	2	3	4
5回	3	3	7
4回	4	1	8
3回	6	3	7
2回	8	5	8
1回	7	5	6
0回	7	4	10



問4 ご自分の健康を意識した食生活を実践していますか？

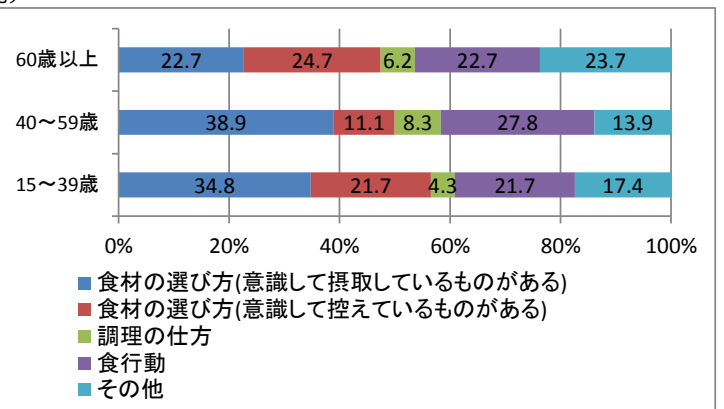
	15-39歳	40-59歳	60歳以上
意識をして実践している	16	12	56
意識はしているが実践できていない	25	25	41
実践していない	8	3	6



問5 健康を意識した食生活の実践例

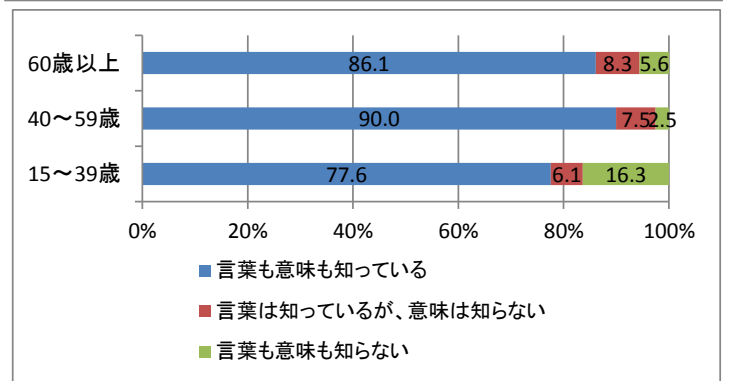
(問4で【意識をして実践している】と答えられた方への質問)

	15-39歳	40-59歳	60歳以上
食材の選び方(意識して摂取しているものがある)	8	14	22
食材の選び方(意識して控えているものがある)	5	4	24
調理の仕方	1	3	6
食行動	5	10	22
その他	4	5	23



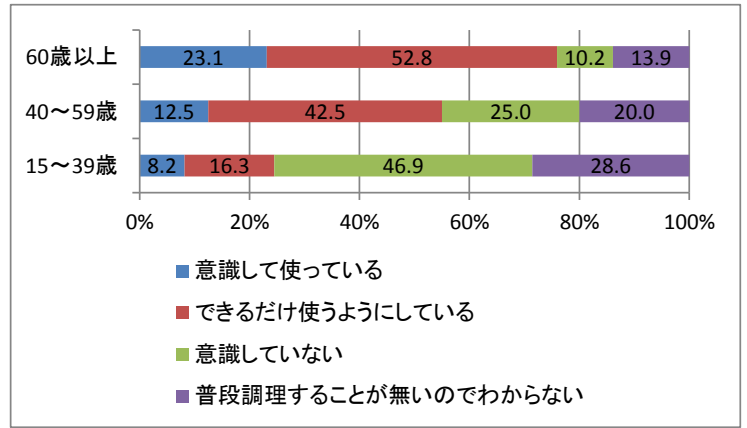
問6 「地産池消」という言葉やその意味を知っていますか？

	15-39歳	40-59歳	60歳以上
言葉も意味も知っている	38	36	93
言葉は知っているが意味は知らない	3	3	9
言葉も意味も知らない	8	1	6



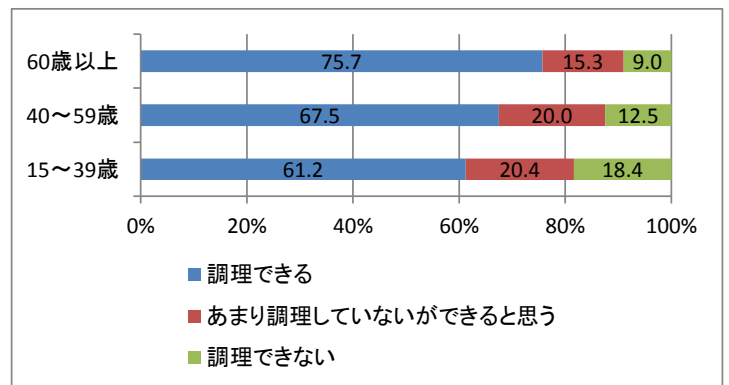
問7 雲南市の食材を意識して使っていますか？

	15-39歳	40-59歳	60歳以上
意識して使っている	4	5	25
できるだけ使うようにしている	8	17	57
意識していない	23	10	11
普段調理することがないのでわからない	14	8	15



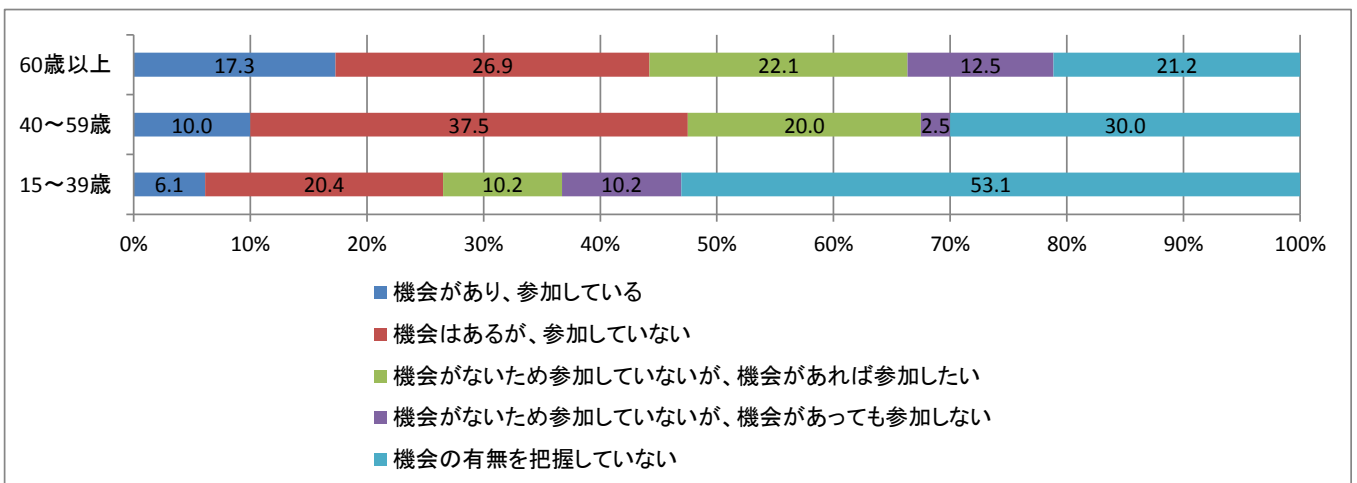
問8 「ごはん」と「みそ汁」を調理できますか？

	15-39歳	40-59歳	60歳以上
調理できる	30	27	84
あまり調理していないができると思う	10	8	17
調理できない	9	5	10



問9 あなたの住まいの地域で、食や農に関連する活動やイベントに参加する機会がありますか？

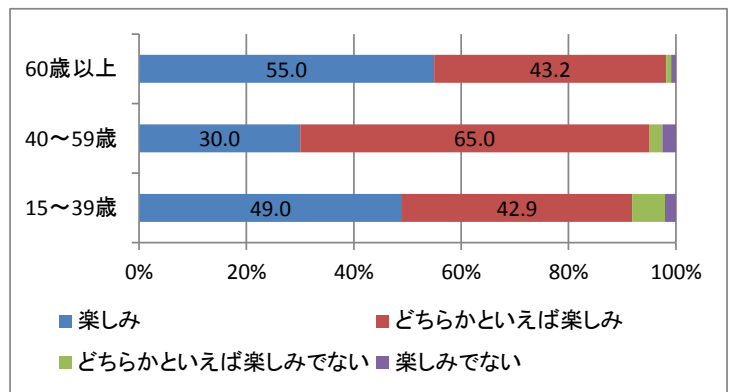
	15-39歳	40-59歳	60歳以上
機会があり、参加している	3	4	18
機会はあるが、参加していない	10	15	28
機会がないため参加していないが、機会があれば参加したい	5	8	23
機会がないため参加していないが、機会があっても参加しない	5	1	13
機会の有無を把握していない	26	12	22



(4) 食に関する意識

問1 あなたは食事の時間が楽しみですか？

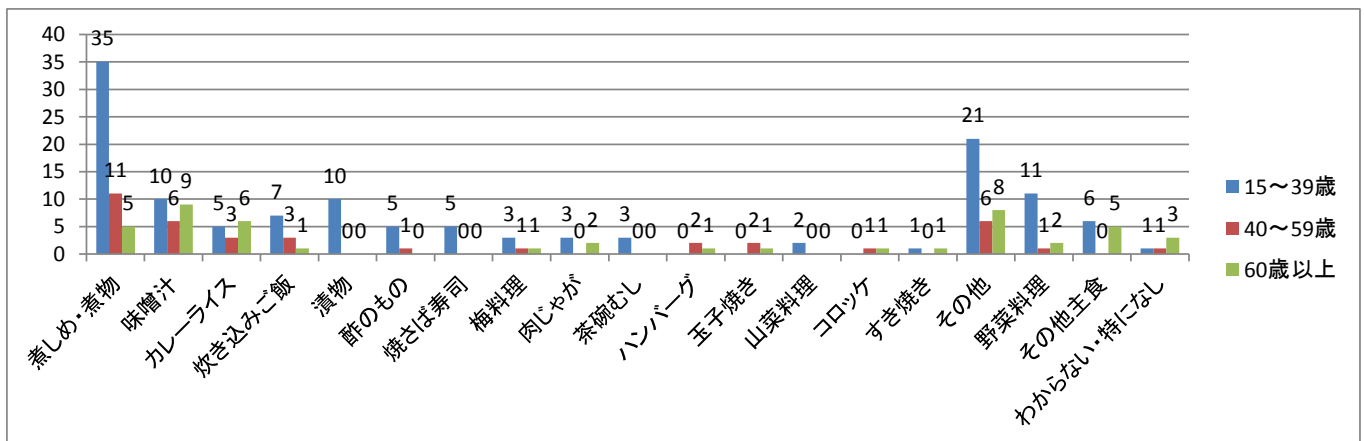
	15-39歳	40-59歳	60歳以上
楽しみ	24	12	61
どちらかといえば楽しみ	21	26	48
どちらかといえば楽しみでない	3	1	1
楽しいでない	1	1	1



問2 あなたの家の「家庭の味」と思うものは何ですか？

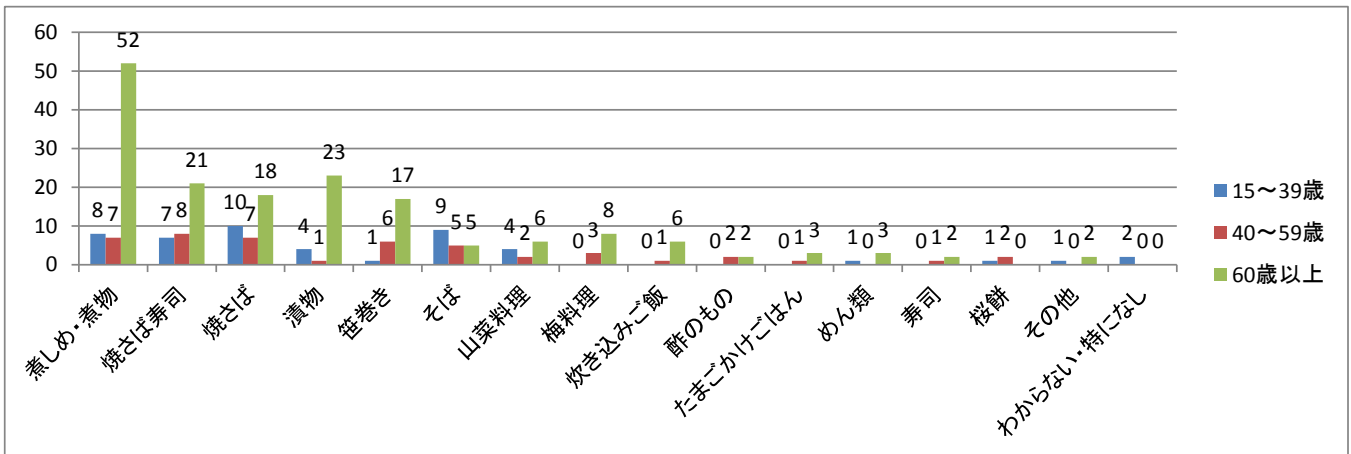
	15-39歳	40-59歳	60歳以上
煮しめ・煮物	5	11	35
味噌汁	9	6	10
カレーライス	6	3	5
炊き込みご飯	1	3	7
漬物	0	0	10
酢のもの	0	1	5
焼そば寿司	0	0	5
梅料理	1	1	3
肉じゃが	2	0	3
茶碗むし	0	0	3
ハンバーグ	1	2	0
玉子焼き	1	2	0
山菜料理	0	0	2
コロッケ	1	1	0
すき焼き	1	0	1
その他	8	6	21
野菜料理	2	1	11
その他主食	5	0	6
わからない・特になし	3	1	1

※その他主食にはカレーライス、炊き込みご飯、焼そば寿司以外の主食類が計上されています。



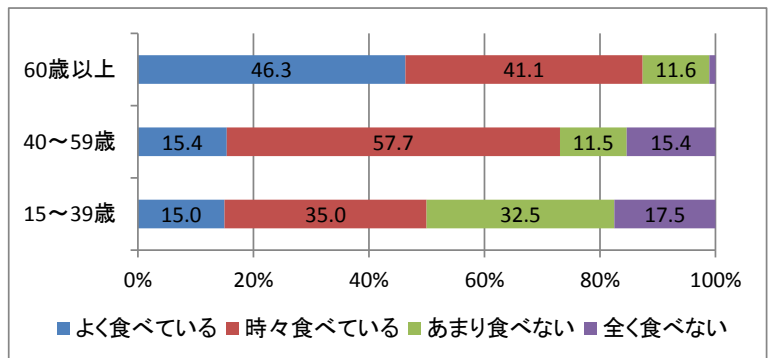
問3 あなたが「雲南の郷土食」と思うものは何ですか？

	15-39歳	40-59歳	60歳以上
煮しめ・煮物	8	7	52
焼そば寿司	7	8	21
焼そば	10	7	18
漬物	4	1	23
笹巻き	1	6	17
そば	9	5	5
山菜料理	4	2	6
梅料理	0	3	8
炊き込みご飯	0	1	6
酢のもの	0	2	2
たまごかけごはん	0	1	3
めん類	1	0	3
寿司	0	1	2
桜餅	1	2	0
その他	1	0	2
わからない・特になし	2	0	0



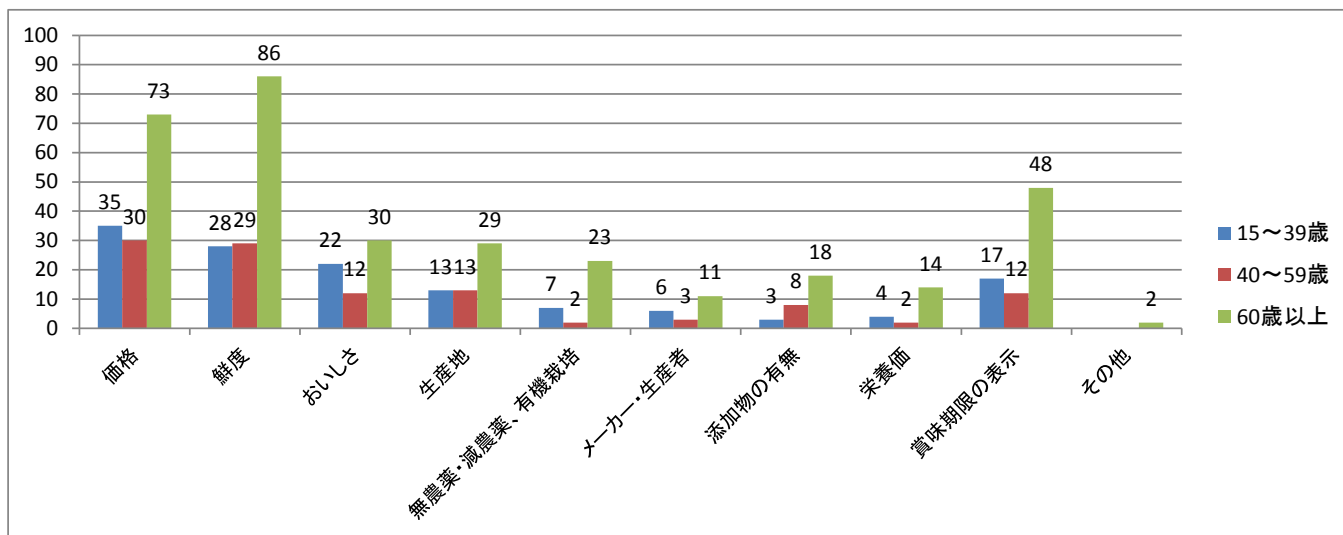
問4 問3で答えた「雲南の郷土食」を家庭で調理して食べていますか？

	15-39歳	40-59歳	60歳以上
よく食べている	6	4	44
時々食べている	14	15	39
あまり食べない	13	3	11
全く食べない	7	4	1



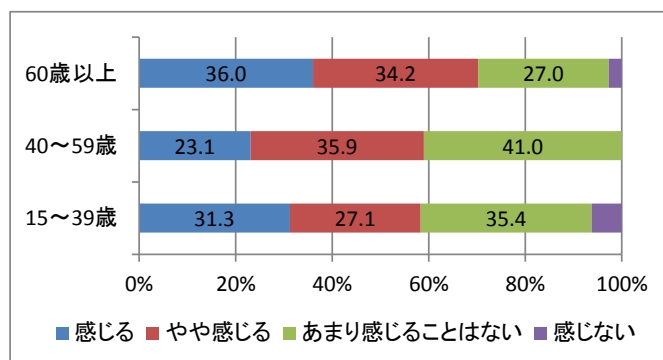
問5 食品を選ぶ際の選択基準は何ですか？

	15-39歳	40-59歳	60歳以上
価格	35	30	73
鮮度	28	29	86
おいしさ	22	12	30
生産地	13	13	29
無農薬・減農薬、有機栽培	7	2	23
メーカー・生産者	6	3	11
添加物の有無	3	8	18
栄養価	4	2	14
賞味期限の表示	17	12	48
その他	0	0	2



問6 雲南の食の良さを感じることがありますか？

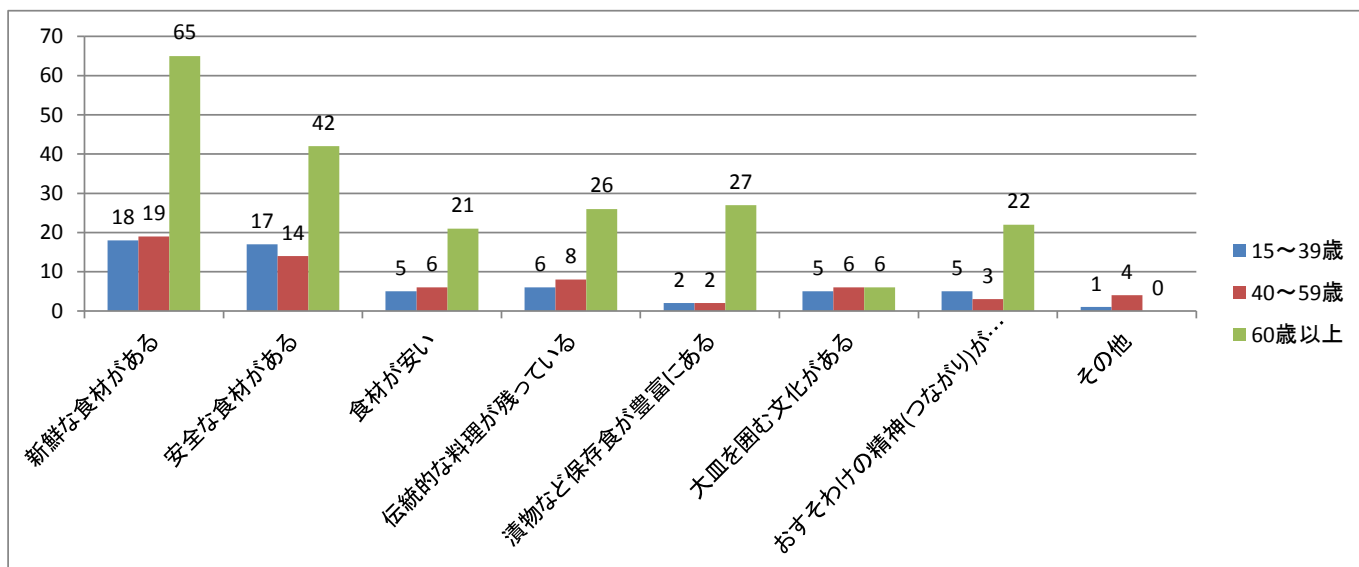
	15-39歳	40-59歳	60歳以上
感じる	15	9	40
やや感じる	13	14	38
あまり感じることはない	17	16	30
感じない	3	0	3



問7 雲南の食の良さはどんなことだと思いますか？

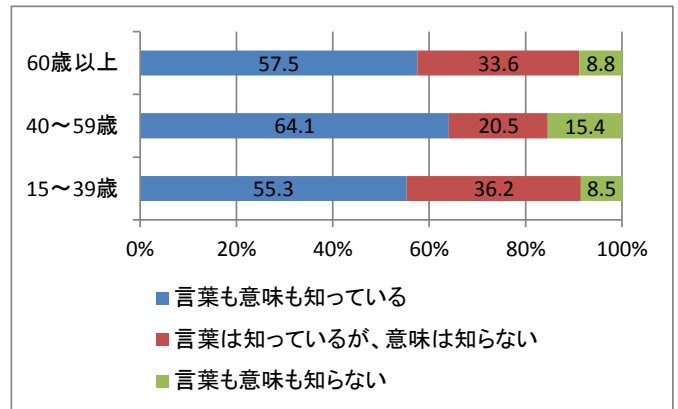
(問6で【感じる】【やや感じる】と答えられた方への質問)

	15-39歳	40-59歳	60歳以上
新鮮な食材がある	18	19	65
安全な食材がある	17	14	42
食材が安い	5	6	21
伝統的な料理が残っている	6	8	26
漬物など保存食が豊富にある	2	2	27
大皿を囲む文化がある	5	6	6
おすそわけの精神(つながり)がある	5	3	22
その他	1	4	0



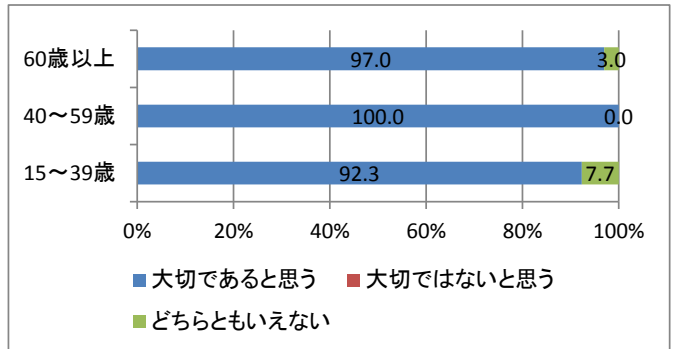
問8 「食育」という言葉やその意味を知っていますか？

	15-39歳	40-59歳	60歳以上
言葉も意味も知っている	26	25	65
言葉は知っているが意味は知らない	17	8	38
言葉も意味も知らない	4	6	10



問9 食育は大切だと思いますか？

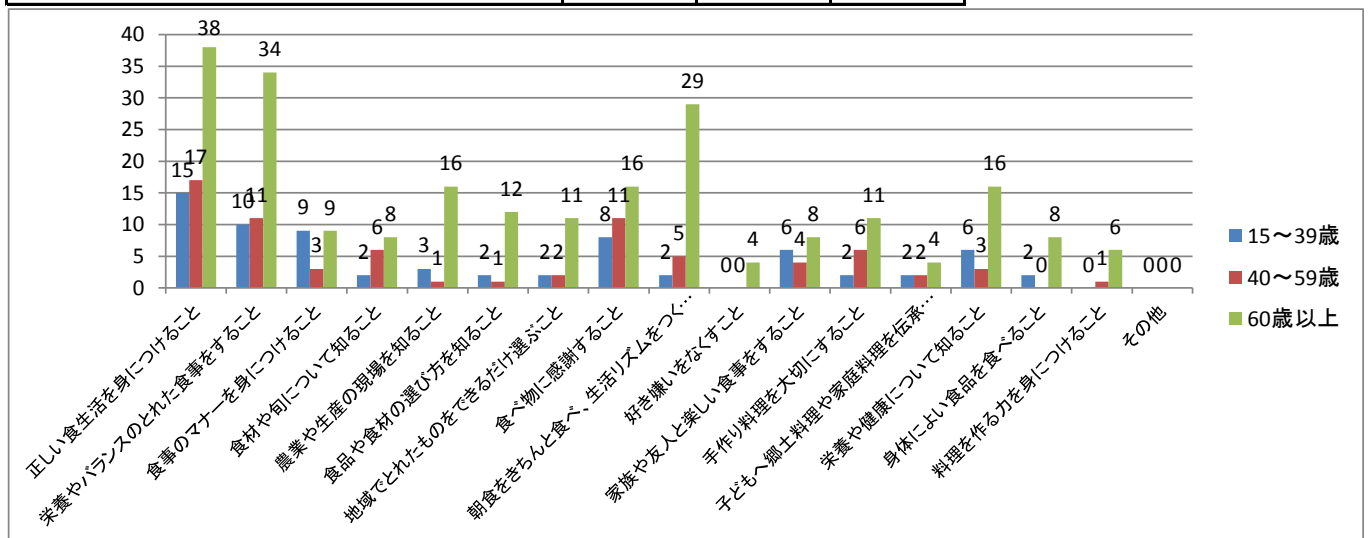
	15-39歳	40-59歳	60歳以上
大切であると思う	24	25	65
大切ではないと思う	0	0	0
どちらともいえない	2	0	2



問10 食育に関して大切だと思うことは何ですか？

(問9で【大切だと思う】と答えられた方に質問)

	15-39歳	40-59歳	60歳以上
正しい食生活を身につけること	15	17	38
栄養やバランスのとれた食事をする	10	11	34
食事のマナーを身につけること	9	3	9
食材や旬について知ること	2	6	8
農業や生産の現場を知ること	3	1	16
食品や食材の選び方を知ること	2	1	12
地域でとれたものをできるだけ選ぶこと	2	2	11
食べ物に感謝すること	8	11	16
朝食をきちんと食べ、生活リズムをつくること	2	5	29
好き嫌いをなくすこと	0	0	4
家族や友人と楽しい食事をする	6	4	8
手作り料理を大切にすること	2	6	11
子どもへ郷土料理や家庭料理を伝承すること	2	2	4
栄養や健康について知ること	6	3	16
身体によい食品を食べること	2	0	8
料理を作る力を身につけること	0	1	6
その他	0	0	0



4. 雲南市の食育推進に対するご意見をお聞かせください。

※自由記述で回答いただいた原文のまま掲載しています。

- ・産直、加工品グループ、企業など頑張っている取組をもっと紹介する。
- ・「雲南の郷土食」は安全で安心なので、とてもよいと思います。若い人たちにも郷土食が伝わっていったらもっと良いと思います。
- ・小学校や幼稚園、保育所でとても関心高いです。食育の勉強をどんどんしてほしい。
- ・食育推進という活動が何を向上させているのかよく分からない。
- ・取り組みがあまり伝わってないように感じられます。具体的な成果、今後の対策をしっかりと願います。
- ・もう少し、お食事処を増やしてほしい(和食、カフェ系)。
- ・問10の回答は全て必要な事ばかりのように思う。全部必要です。
- ・食べることは楽しみでもあり、成長のために必要なことであると思います。こうしたことから雲南市は恵まれた環境にあると思いますのであらゆる世代で食育が進むことを願います。
- ・子どもも大きくなり、“食育云々”と離れた生活になった。高齢になりつつある両親の生活リズムの為に一緒に食事をとることのみ心がけている。
- ・都会に手紙出す時は『雲南市』ではどこの県か知らない人が多いと思うので「島根県」を入れる様にしていますが全国にアピールできる雲南の食べ物がうまれてほしいと願っています。
- ・米、野菜、果物が豊富で新鮮なものが多く、若い人や子供達にもいろいろな食育の講演をして頂いたり、調理、弁当作りなど小中高生に指導してもらい有難く思っています。
- ・地元で取れた食材を使って料理して食べる事が健康の元になると思います。
- ・食育は良いと思うのですが、仕事が忙しすぎて、調理時間がほぼなく、上手く食事をする事が出来ません。
- ・やはり、農薬をなるべく使用しない物作り。
- ・たまに、有線放送で放送されてることしか思い浮かばないが、どのような活動をされてきたのかがわからない。例えば、新聞に記事を書けるなどもっと大々的に広く周知できるような広報の仕方を執ると良いと思う。
- ・若い人、子供達に土に接する機会を設け大地の恵みのありがたさを感じてほしいイベントなどで作ったり食べたりする場合、できたから勝手に食べたりしないで、全員と一緒にたべること(せっかくの機会だからあいさつ、食べ方等々説明して)
- ・特に食育に力を入れていると感じない
- ・何の漬物が郷土食ですか？またアンケートしてください。
- ・中学校で「弁当の日」の取組があると聞きます。食べることに意識を向けることができ、とてもよいことだと思います。また、幼少期の食からが大事であると思うので、若いお母さん達に難しい幼児食の作り方を教えるなど、敷居を低くした指導があると良いと思います。
- ・人間が生きて行くに、食はとても大切な事。もっと、皆が関心を持つ場があったら良いと思います(料理教室などあればよいと思います。)
- ・日々の生活の中で、雲南市が推進する「食育」を目にすることがない。もっと積極的なPRが必要だと思う。

- ・はつらつデイサービスに出させてもらっています。耳も音だけで何も聞けぬ。栄養士さんの話でも。プリントがあり、大方のことは分かるけど、お話の言葉わからず。ただ声だけ。スタッフの方が紙に書き教えて下さるので有難いと感謝しています。家族が居るので1人暮らしではないから。
- ・“もったいない”で育った年代です。一粒の米にも農家の苦労があると育てられました。ポイ捨てする年代の子供達に食べられることの幸せを知ってほしいと思います。給食などを残しているのを見ると残念です。
- ・私たちは愛育班の活動の中で、食の大切さ、子育てにおける食生活の重要性を学習しました。減塩等いろいろ学習することにより、より良い食生活を送ることができると思います。学ぶことにより、より関心を持つことによって健康の推進にもつながると思います。
- ・時折、講演会が開かれるようだが参加できかねる。そこで、高齢者向けの食材調理法方法等参考になるパンフレットでもあれば幸である。
- ・農業の大切さを学んでほしい。
- ・趣旨に記された「様々な取り組み」がわかりません。わからないながらもこのアンケートにこたえます。取り組みの効果測定につなげて、成果だとは思わないでほしい。引き続き頑張ってください。
- ・女性の多くは地区外、市外、県外から雲南市に来ているわけですので、郷土料理等を守っていく為にも、いろいろ知りたいと私は思っています。ケーブルテレビ等を通じて、教えてもらえたらと思います。食育推進の活動をあまり知らないので書かせていただきました。
- ・日本の子供は恵まれている事を教えるべきだと思います。世界中に十分な食事が出来ない子供はたくさんいます。感謝の気持ち、思いやる気持ち、大切にすることを、大人も子供も教えるべき、考えるべき事はたくさんあります。
- ・年を重ねたので、なかなか思うように出来ませんが出来るかぎりがんばります。
- ・食育に熱心にやっておられると思っています。
- ・仕事が忙しく家族全員で食事を取ることが少ない中、食育について考えることは大切。このアンケートで、郷土料理を再認識しました。
- ・新聞、広報、ネットがない環境にいる人はいったいどんな活動をしているのかさっぱり分かりません。
- ・濃いだしで煮しめを炊いて、塩分ひかえめの煮物を。(濃いだしで塩分がひかえられる)
- ・ここ数年の食に関するとりくみを学校など教育機関からの発信でありがたく参加しています。知っていても、日々の生活で続かなければいけません。食べることにより命をはぐくみ、生命の尊さ、感謝を学ぶのには欠かせない経験です。子供たちが理解できるようになるには大人になってから感じる部分なので時間がかかるとは思いますが、それを育む環境は親から私たちにもしてもらったようにしてやりたいです。
- ・雲南市にはおいしい野菜がたくさんあります。出来るだけ地元の食材を買い、子供たちが小さいときから手伝いをし、一緒になって台所に立ち、作り、いただく。自然にマナーも感謝も身につくと思います。台所は散らかるかもわからないが、片付けることも勉強です。
- ・イベントに参加したことがありますが、ここまで考えておられるのか、と感じるくらい深く、市民のために考えておられることを感じました。大切なとりくみだと思います。家族の和は食事から生まれる気がします。今後に期待しています。

- ・大東の方では、小学校・中学校共に、食育推進に力を入れていると思います。学校の方でも、お弁当の日を設け自分でも作ろうということで、全部できなくても詰めるだけとか、一品でも作る、買い物に行って食材を選ぶなど自分でもやろうという気持ちを大切にしています。中学生になるとほぼ自分で作り、小学生でも早くから起きて一生懸命作って、お弁当の日を楽しみにしています。また、PTAの方で、お弁当の日で有名な竹下先生をお呼びして講演を開いたりしています。

《第2次雲南市食育推進計画策定の経過》

平成 25 年 7 月	食に関するアンケート調査の実施（回収期間：7月1日～7月31日）
	アンケートの集計 第2次雲南市食育推進計画 素案の作成
10月25日	食育推進重点プロジェクト会議の開催 アンケート結果の報告 計画案の検討
平成 26 年 1 月 31 日	うんなん食育ネット会議の開催 アンケート結果の報告 第1次計画実施期間の取り組み実績のまとめ 第2次計画案(方向性)の検討と承認
	計画案の修正等
平成 26 年 4 月	庁舎内作業部会委員(プロジェクト委員)の選出
6月12日	第1回 プロジェクト委員会議の開催 第2次計画 取り組み内容案の検討 目標値案、成果指標案の検討と設定
7月14日	第2回 プロジェクト委員会議の開催 第2次計画 取り組み内容案、目標値案、成果指標案の決定
8月 5日	うんなん食育ネット会議の開催 第2次計画 目標、成果指標、関係者の役割について検討 うんなん食育ネット委員のあり方の検討
10月27日	第3回 プロジェクト委員会議の開催 第2次計画 第1稿の検討
	計画案の修正等
11月21日	第4回 プロジェクト委員会議の開催 第2次計画 第2稿の検討
12月17日	うんなん食育ネット会議の開催 第2次計画 第3稿の検討
12月25日 ～平成 27 年 1 月 25 日	パブリックコメントの実施
	計画案の修正等
平成 27 年 3 月	市長決裁(市の計画として決定)
	公表

第2次雲南市食育推進計画

(平成27年度～平成31年度)

発行年月：平成27年3月

発行編集：雲南市役所 健康福祉部 健康推進課

〒699-1392 島根県雲南市木次町木次1013-1

TEL 0854-40-1045

FAX 0854-40-1049

E-mail kenkousuishin@city.unnan.shimane.jp

<http://www.city.unnan.shimane.jp/>



第2次雲南市食育推進計画